

**ボスニア・ヘルツェゴビナ国
スレブレニツァ地域における帰還民を含めた
住民自立支援（人間の安全保障プロジェクト）
運営指導調査（中間評価）報告書**

**平成 19 年 8 月
（2007 年）**

**独立行政法人 国際協力機構
農村開発部**

農 村
J R
07-39

**ボスニア・ヘルツェゴビナ国
スレブレニツァ地域における帰還民を含めた
住民自立支援（人間の安全保障プロジェクト）
運営指導調査（中間評価）報告書**

**平成 19 年 8 月
（2007 年）**

**独立行政法人 国際協力機構
農村開発部**

序 文

ボスニア・ヘルツェゴビナ国では、1992～1995年の内戦によって死者20万人以上、難民・国内避難民は200万人以上が発生し、紛争終結後10年以上が過ぎた今も、持続的な難民・国内避難民の帰還は依然重要な課題となっています。同国は、紛争の激戦地で多くの難民・国内避難民を出したスレブレニツァ市における地域住民自立支援が国内避難民の帰還促進に寄与することから、日本国政府に対して専門家の派遣を要請してきました。これを受けて、独立行政法人国際協力機構は、平成18年3月14日から2年間の予定で長期専門家1名を派遣しています。

当機構では、プロジェクト全体の進捗状況を確認・分析し、今後実施する協力内容について具体的な提言を行うため、平成19年5月27日から同年6月5日まで、農村開発部第二グループ畑作地帯第二チーム長 小林 伸行を団長とする運営指導（中間評価）調査団を派遣しました。

本報告書は、同調査団の調査・協議結果を取りまとめたもので、今後のプロジェクト展開に広く活用されることを願うものです。

終わりに、この調査にご協力とご支援をいただいた内外の関係各位に対し、心から感謝の意を表するとともに、引き続き一層のご支援をお願いする次第です。

平成19年8月

独立行政法人国際協力機構
農村開発部
部長 松田 教男

目 次

序文	
目次	
写真	
プロジェクト位置図	
略語表	
第1章 中間評価調査団の概要	1
1-1 調査団派遣の経緯と目的	1
1-2 団員の構成と調査期間	1
1-3 対象プロジェクトの概要	1
第2章 プロジェクトの実績及び実施プロセス	3
2-1 実績	3
2-1-1 投入について	3
2-1-2 成果について	3
2-1-3 プロジェクト目標について	4
2-1-4 上位目標について	4
2-2 実施プロセス	5
第3章 評価結果	7
3-1 評価5項目による評価	7
3-2 結論	10
第4章 提言と教訓	12
4-1 提言	12
4-2 教訓	13
付属資料	15
1. 調査日程	17
2. 主要面談者	19
3. PDM	21
4. PDM 指標の達成状況と活動実績	23
5. プロジェクト事業収支見込表	25
6. BiH 人権難民省へのレター及びスレブレニツァ市役所との合意書	27
7. ヒアリングメモ	33
8. 質問票への回答	45
9. 収集文献・資料一覧	67

写 真



リンゴの苗木（果樹植え付け事業）



サイト移動中



温室イチゴ用の点滴灌漑（イチゴ生産事業）



スケラニのロゴを付したパック



養蜂箱（養蜂事業）



取れた蜂蜜



刈取り機での作業（農機共同利用事業）



ハーブ生産事業



手前はパプリカ、奥はキュウリ（温室野菜生産事業）



受益者（ムスリム）



トンネル入り口（マッシュルーム生産事業）



ダム建設時の試掘トンネルの整備状況



ハーブ、プラム、マッシュルーム加工場



家畜市場の当初建設予定地



受益者ヒアリング（民族の異なる2人）



MZ 代表



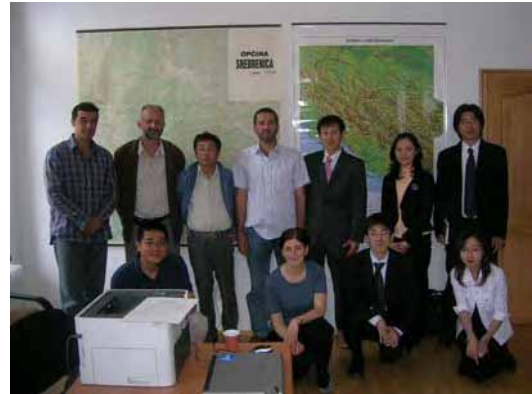
ムスリム系 NGO “Dome” の代表



バイナバスタ金曜市場での販売



署名したメモランダムとの交換



署名後の集合写真



BiH 人権難民省への報告



大使館への報告（中央は曁臨時代理大使）



プロジェクトで使用している車



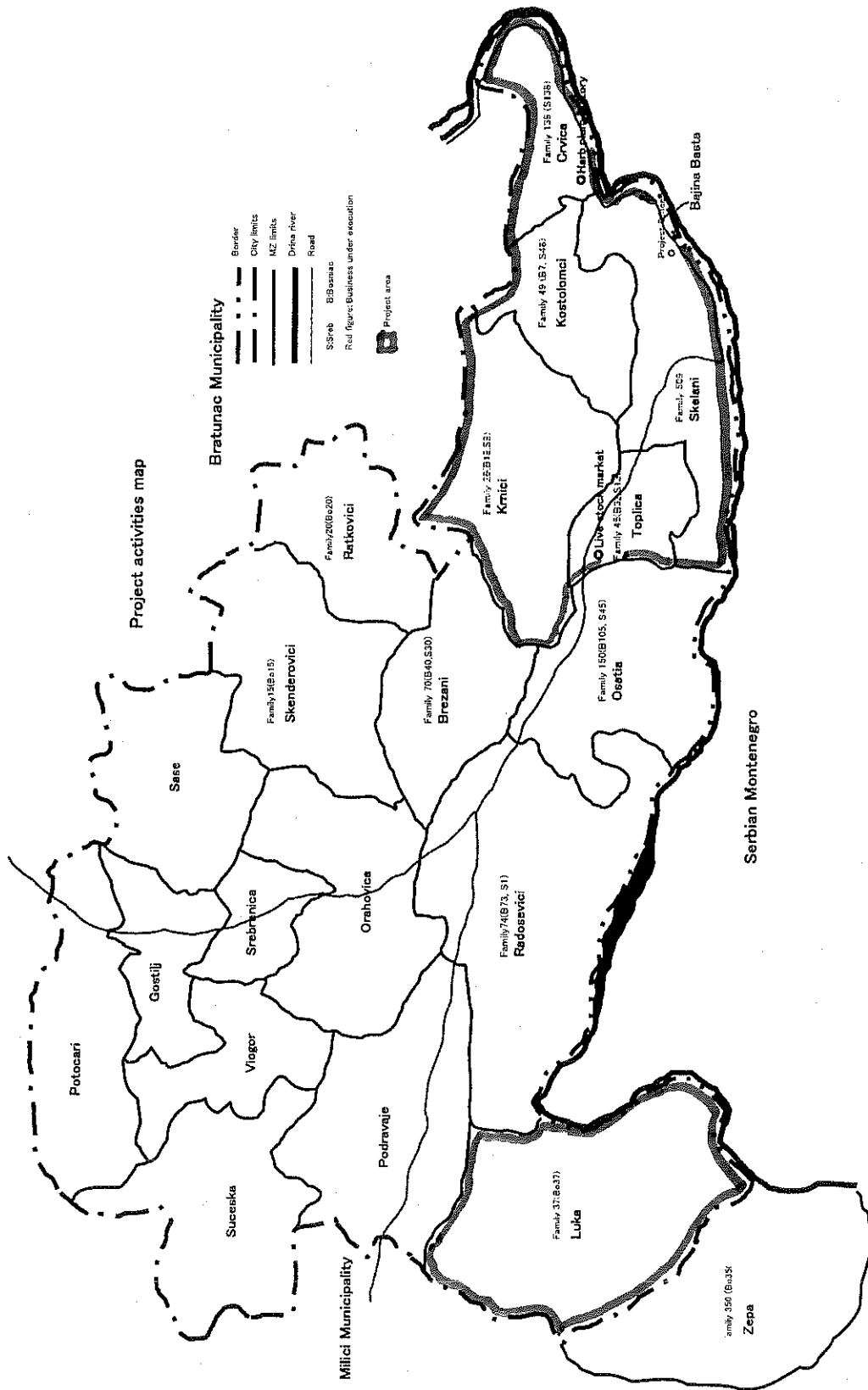
プロジェクト事務所傍で見かけた子供達

プロジェクト位置図



スレブレニツァ

Skelani MZ Crvica MZ Krnjici MZ Kostolomci MZ Toplica MZ Luka MZ



略 語 表

略称	英語	日本語
BiH	Bosnia and Herzegovina	ボスニア・ヘルツェゴビナ
C/P	Counterpart Personnel	カウンターパート
ICJ	International Court of Justice	国際司法裁判所
IDP	Internally Displaced People	国内避難民
JICA	Japan International Cooperation Agency	独立行政法人国際協力機構
MZ	Local Community	町・村
NGO	Nongovernmental Organization	非政府組織
OHR	Office of Higher Representative	上級代表事務所 (PIC の執行機関で民政面担当)
PDM	Project Design Matrix	プロジェクト・デザイン・マトリックス
PIC	Peace Implementation Council	和平履行評議会
RS	Republic of Srpska	スルプスカ共和国
SRRP	Srebrenica Regional Recovery Programme	スレブレニツァ地域復興プログラム
UNDP	United Nations Development Programme	国連開発計画
UNHCR	United Nations High Commissioner for Refugees	国連難民高等弁務官事務所

第1章 中間評価調査の概要

1-1 調査団派遣の経緯と目的

ボスニア・ヘルツェゴビナ国（以下、「BiH」）では、紛争終結後 11 年がたつ現在も、持続的な難民・国内避難民の帰還は依然重要な課題として残されている。紛争直後多くあった帰還民への人道的支援も、復興から開発の支援に移行しつつある現在は減少傾向にある。しかしながら、現在も帰還民の約 50%が貧困ラインにあるといわれる等、社会的弱者となった帰還民の生活は厳しい。

同国人権・難民省は、難民・国内避難民の帰還促進、帰還民の支援を担当しており、紛争の激戦地で多くの難民・国内避難民を出したスレブレニツァ市における、地域住民自立支援が国内避難民の帰還促進に寄与することから、日本国政府に対し、独立行政法人国際協力機構（以下、「JICA」）による専門家（スレブレニツァ地域における帰還民を含めた住民自立支援）の派遣を要請し、2006年3月から長期専門家が派遣されている。

本調査団は、プロジェクト全体の進捗状況を確認・分析し、今後実施する協力内容について具体的な提言を行うとともに、右提言の内、可能なものについては、日本国側及び先方関係機関（実施機関：BiH 人権・難民省、支援機関：スレブレニツァ市）とメモランダムにより確認することとした。

1-2 団員の構成と調査期間

(1) 団員の構成

氏名	担当	所属
小林 伸行	総括	JICA 農村開発部第 2G 畑作地帯第 2T チーム長
橋本 敬市	平和構築	JICA 国際協力総合研修所 国際協力専門員
大野 裕枝	協力計画	JICA 中東・欧州部中東・第 2 欧州 T 主任
吉田 和洋	評価管理	JICA 農村開発部第 2G 畑作地帯第 2T 主任

*なお、JICA バルカン事務所より、辰見企画調査員及び橋本企画調査員が合流。

(2) 調査期間

2007年5月27日（日）～6月5日（火）（調査日程は、付属資料1を参照）

1-3 対象プロジェクトの概要

(1) 協力の枠組み

①案件名：スレブレニツァ地域における帰還民を含めた住民自立支援（人間の安全保障プロジェクト） ※個別案件（専門家派遣）

②派遣期間：2006年3月14日～2008年3月13日

③プロジェクトサイト：スレブレニツァ市内のスケラニ他 5MZ

*MZ=Local Community（町・村）

- ④BiH 側実施機関：BiH 人権・難民省
支援機関：スレブレニツァ市

(2) 協力内容（専門家派遣時の協力計画）

①長期専門家派遣の目的

対象地域における住民の経済的自立に向けた能力開発の推進に向け、対象地域住民による継続した事業が展開されることを目的とする。対象地域は、ムスリム・セルビア系の民族バランスや協力の進め易さ等を考慮してスレブレニツァ市の6MZ（Skelani MZ、Crvica MZ、Krnjici MZ、Kostolomci MZ、Toplica MZ、Luka MZ）とし、現地 NGO を活用の上、同地域に居住する住民を対象としたプロジェクトを運営する（Luka MZ においては NGO ではなく MZ を通じた協力を行う）。

②期待される成果：

帰還民を含めた地域住民による経済的自立へのグループ事業手法が開発される。

第2章 プロジェクトの実績及び実施プロセス

本案件は、個別案件（専門家派遣）であり、支援開始時において PDM は正式に作成されていない。派遣目的及び派遣前に試行的に作成されていた成果・活動案を参考の上、今回 PDM（付属資料3）を作成した。右 PDM に基づき、これまでのプロジェクトの実績・実施プロセスを確認の上、5項目評価を行なった。

2-1 実績

2-1-1 投入について（金額については、18年度末時点）

総投入額 : 0.70 億円（協力終了時、1 億 3 千万円の見込み）
長期専門家 : 1 名
ローカルコスト負担 : 4,517 万円（内、機材関係 1,818 万円）
NGO 主催の研修 : 37 コース 計 885 名

2-1-2 成果について（達成度合い・達成見込み）

(1) 成果 1：地域住民の経済的自立に向けた事業能力が開発される。

協力期間の中間時点における達成度としては適切であり、協力期間終了時において成果の達成が期待される。

具体的な達成状況は以下のとおり。

農業に関する 9 つのサブプロジェクトが開始されている。それら計画内容は、地域に根ざした現地 NGO から提案された。各事業（サブプロジェクト）の収益性は確保される見込みであり、地域住民の収入向上に寄与することが期待される。

養蜂事業においては、プロジェクトの実施によって養蜂を新たに開始する者も現れ、養蜂関係者が増えた結果として association の結成も進められている（代表として受益者の 1 人が着任する予定）。

ハーブ生産事業においては、これまで当該地域で栽培されてなかった作物が順調に生育する（7月頃に刈取り予定）とともに、業者と NGO との販売契約も行なわれており、販路が確保されている。

温室野菜生産事業においては、1 受益者当たりの支援額が大きくなる一方で、受益者数は限定的であるが、事業受益者以外の農家に対して当該事業で作成した“スケラニブランド”のロゴを使用した共同出荷を提案する等、同事業を核として、コミュニティにおける事業対象者以外への活動の広がりが期待できる。

NGO からは、サブプロジェクトの実施が、マネジメント、計画立案、事業実施、モニタリング等の事業能力の向上に貢献しているとの意見を得た。

なお JICA 専門家は、これらサブプロジェクトの将来性を見極めた上での実施事業の選択、そのスムーズな実施やモニタリングにおいて有用な役割を果たしている。

(2) 成果 2：事業を通じて両民族（紛争に関与したムスリム・セルビア系）の間の会話・交流が活発になる。

会話・交流は活発となってきており、協力期間終了時の達成が見込まれる。

今回の中間時点で確認された達成状況は以下のとおり。

紛争以前に当該地域で有していた技術を甦らせることと、新規作物の技術習得とを目的として、多数の研修が行われた（延べ受講者 885 名）。こうした研修はセルビア系、ムスリムに関係なく実施されている。受益者間や NGO 間の会合や両民族が参加した共同出荷も行われており、両民族間の交流は盛んになっている。

養蜂事業では、セルビア人 3 人、ムスリム 2 人のアドバイザーが対象地域を巡回し、民族を問わずに指導を行っている。こうした頻繁なコンタクトを通じて、事業実施以外の日常生活においても交流が深まっている。

2-1-3 プロジェクト目標について（達成度合い・達成見込み）

「プロジェクト目標」である「両民族合同事業の継続実施」及び「事業に関する両民族間の意思決定」については以下のとおり、進展が見られる。

- ①2-1-2 (1) に記載のとおり、NGO からの提案に基づいたサブプロジェクト（事業）は、現場に滞在する JICA 派遣専門家による事業の選択及びモニタリング・助言を得て、順調に実施されている。
- ②事業実施における問題の解決は NGO と住民との協議を通じて対処している。スケラニのロゴ（Darovi Drine＝ドリナからの贈り物）を決める際にも、用語や使用する文字（セルビア系はキリル文字、ムスリムはローマ字）で意見が分かれたものの、JICA 派遣専門家による代替案の提示や市の職員からのコメントによって、最終的には一同の賛同が得られた。但し、こうした民族の自覚に起因する問題においては自分達だけでは解決しにくい状況である。
- ③2-1-2 (2) に記載のとおり、プロジェクトで始まった共同出荷や篤農家による技術指導等、共通の利益を目指した事業を通じて両民族間の交流が活発化している。
- ④スレブレニツァ市長からは、事業哲学・マネジメントの経験の更なる技術移転への期待が述べられている（質問票回答より）。

2-1-4 上位目標について

紛争中の民族浄化作戦により他民族に対する殺戮、暴行、追放等を繰り返した結果、相互不信が払拭できない地域において、和解の促進、信頼醸成、これらを基盤にした難民・IDP の帰還を促進することが、本プロジェクトの上位目標である。上位目標に関連して表出している現象は、以下のとおりである。

- ①当該地域において帰還者数が増加している（スレブレニツァ市長談）。UNHCR の集計によれば、スレブレニツァ地域を含むスルプスカ共和国東部におけるムスリム住民の帰還は 2000 年以降着実に進んでいる。調査団の実感としては、低年齢層の居住者数が顕著に増加している。

- ②紛争前、多民族融合国家ボスニアの特徴として言及されていた宗教行事への相互訪問が復活しつつある（セルビア人がバイラム¹に参加する等）。
- ③プロジェクトの裨益者が中心となり、トマト、ハーブ、蜂蜜等の共同出荷組合形成の動きが見られる。
- ④ムスリム系民族主義政党「民主行動党」員であるスレブレニツァ市長が、セルビア人をも裨益対象にした本プロジェクトの意義を理解し、行政府としての積極支援を表明している。

2-2 実施プロセス

これまでの活動において以下のとおり対応してきており、プロジェクトの実施過程で生じている問題は特に見られなかった。

- ①平和構築が必要とされる多くの国と同様、BiH 政府の組織・能力は脆弱で、オーナーシップも低い。本プロジェクトでは、ニーズ（スレブレニツァ地域の難民・避難民の帰還促進のための民族和解の促進と経済的な発展）の確認、このニーズに対応するための方法や先方カウンターパート（以下、「C/P」）機関の選定、要請書の取り付けのために、複数回の調査団の派遣を含めて十分な時間と労力をかけた。先方が負担すべき C/P の配置やオフィス等の提供も当初は無かったが、スレブレニツァ市役所を巻き込んだプロジェクトの実施に努めてきた結果、同市スケラニ出張所の担当職員が NGO との会合に参加したり、プロジェクトを今後も継続した（協力を延長する）場合のオフィスの提供や C/P の追加配置に関して（市役所から）前向きな回答が得られるようになる等、市役所の関与は深まりつつある。
- ②スレブレニツァは極めて政治的に不安定な地域であること、民族の和解が日本国における対 BiH 援助政策の重点分野であること、JICA 事務所が存在しないことから、本プロジェクトは、プロジェクトの活動を支援する人間の安全保障・草の根無償資金協力事業の採択のみならず、在ボスニア・ヘルツェゴビナ日本国大使館から多大なバックアップを得て、実施されている。
- ③各事業は NGO の提案を選定する形で決定されたが、現地の NGO は経験も浅く、プロポーザルの作成にも慣れていないので、アイデア自体を重視し、専門家と相談しつつプロポーザルを作成できるようにした。また事前に、両民族を対象としていること、グループワークであること等、採択にあたって重視する点を明確にした。
- ④ルカ MZ の住民はムスリムのみであるが、プロジェクトで供与する農業機械の受益者の選定をめぐって、石の投げ合いが行われた。生活のレベル、支援の受益状況は民族だけでなく、帰還民であるか否か、帰還した時期によっても異なり、住民の持つ不公平感（あるいは不信感）が他民族に対するものだけではないことが判明した。
- ⑤専門家の派遣直後は、多くの農民が専門家のオフィスを直接訪問して牛の配布等を要望したが、根気良くプロジェクトの実施方法を説明した結果、本プロジェクトに対する地域住民からの資金的・物的支援のみの要望は無くなった。
- ⑥農産物を出荷する際に利用するプロジェクトのロゴマーク（デザイン、ブランド名、セルビア

¹ イスラム教における、断食明けの祝祭行事

系のキリル文字にするかムスリムのラテン文字にするか) を決定するのは難航したが、専門家がリードし、双方が納得する「理由付け」をすることによってこれを達成した。

第3章 評価結果

3-1 評価5項目による評価

(1) 妥当性

本プロジェクトは、下記の観点から妥当性が高いと判断できる。

<必要性>

専門家が現地に居住していることにより、ニーズを的確に把握しているとの評価を、市役所と受益者の双方が示していることから、本プロジェクトの活動内容はターゲットグループ（対象地域の住民）のニーズに合致していると判断できる。

<優先度>

①日本国の援助政策

2004年の西バルカン平和定着・経済発展閣僚会合において川口外務大臣（当時）が「平和の定着・経済発展・域内協力の考えに基づき、我が国が引き続き積極的な貢献を行うこと」を打ち出していること、日本国がボスニア・ヘルツェゴビナ PIC（和平履行評議会）運営委員会のメンバーであることから、民族の和解を目的とする本案件は日本国政府の方針と合致している。

また、平和の定着は、JICAの国別事業実施方針においても重点分野と位置付けられている。

②BiHの開発政策の優先度

ボスニア紛争において多くの犠牲者及び難民・避難民を出した BiH において、民族の和解に向け、難民・避難民に対して国際社会がさまざまなレベルで多大な支援や介入を行っている。極めて複雑かつ政治的な問題であるため、必ずしも BiH 側からは明示的な表現はされないが、重要な課題であることは明確である。

<手段としての妥当性>

①“経済的活動を通じた民族の和解”について

本プロジェクトは、プロジェクト対象地域でのほぼ唯一の産業である農業を通じて、民族の和解に資することを目的としている。JICAとしては経験が少ない分野であり、実際には手探りで実施してきた部分も多い。しかしながら、「2-1 実績」に記載のとおり、プロジェクトの活動を通じた交流は増えており、受益者・NGOのインタビューにおいても「共通の利益（Interest）があるので民族を超えたグループで活動することは難しくない」との声が聞かれた。したがって、経済的利益を得るための共同活動を通じて、民族間の交流を深め、信頼醸成を図るという方法が妥当であると判断できる。

②“NGO”を通じた事業の実施について

9事業の内、1事業以外は、当地域の小規模なNGOを通じて専門家の指導の下、実施されている。本案件の要請元である BiH 人権・難民省（要請元）は、実施・要請案件の調整やモニタリングの役割を担っており、スレブレニツァ市役所も、スケラニ出張所長が会議等に参

加しているものの、現場の手足となる人材を持たない。

最下位の行政組織としてMZがあるが、ほとんど機能していない(事業を実施していない)。MZを通じた事業の実施については、BiH人権・難民省や市役所からその様な依頼が無かったこと、本プロジェクトの協力枠組みを形成する段階で、UNHCRから(事業実施に適した)NGOの紹介があったことから、特に考慮してこなかった。

本プロジェクトが対象とするNGOは、そのスタッフ及び事業受益者がプロジェクト対象地域の住民である。NGO活動の直接の対象がプロジェクトのターゲットグループでもあることから、活動の持続性という点でこうした事業の実施体制には妥当性がある。

ただ、今般の聞き取り調査においては、MZの代表から「住民の代表として私的利益に影響されずに事業を実施できる」との主張があった他、スレブレニツァ市長からも「農産加工品の販売には(NGOでなく)法で定められた組織体による必要がある」との指摘もあった(質問票による回答)。

MZは半ば政治組織となっており、受益者が特定の政党の支持者となる可能性を排除できず、そのまま代表の主張を鵜呑みにはできないとはいえ、NGOによる事業の受益者が住民の一部に限定されることを勧告すれば、今後の協力継続の際には、NGOを主体としつつも、MZからのプロポーザルを併せて審査の対象とする等、プロジェクト実施におけるMZとの関係を再検討する必要がある。

③受益者選定方法について

紛争中ムスリムの大量殺が行われたスレブレニツァ地域においては、他ドナーによりムスリムの帰還民に対する支援が多く行われている。しかしながら、多くのセルビア人も犠牲になっており、本プロジェクトにおいては特定の民族を対象とするのではなく、帰還家族、母子家庭、戦争傷痍家族を中心にするのを、各事業のプロポーザルの提出を受ける前に説明し、事業の選定段階においても確認している。このことが住民の不満を最小限に抑え、プロジェクトへの信頼感を高めていると判断される。

また、長期専門家が現地に滞在していることで、専門家と受益者の間で直接コンタクトがとれ、現場のニーズが的確に把握され、より公平(Fair)にプロジェクトが実施されている、とスレブレニツァ市長も評価している。

④日本国の優位性について

日本国はこれまで紛争中、紛争後の復興支援を通して中立的な立場をとっていることから、極めて政治的に不安定な地域であるスレブレニツァ地域において、他主要ドナーに比較して双方からの信頼を得やすいという意味で比較優位性を持っている。

(2) 有効性

本プロジェクトは、下記の観点から概ね有効性が確保されていると判断される。

<成果とプロジェクト目標の関係>

「2-1-3 プロジェクト目標について」のとおり、NGO主導による事業が順調に進捗し、研修等で両民族を交えた話し合いの場が多数設けられていることから、プロジェクト目標の達成に向けた進捗が見られる。

ただ、プロジェクト目標である「両民族合同事業の継続実施」のためには事業の計画・実施・モニタリングという実践が必要であり、これにより NGO において効率的な事業実施・受益者とのコミュニケーション・問題解決・組織能力の強化が図られ、事業を継続していくことにつながるものの、これら事業の財政面・事業実施面でドナーの支援・助言が未だ必要な状況である。また、両民族が関わる事業実施上の問題についてはドナーの支援無しに自分達だけで解決する段階にはないと見られる（長期専門家談）。

(3) 効率性

本プロジェクトの効率性は概ね高いと判断される。

<成果の達成度>

成果の達成度は、中間段階としては適切と判断される。

<投入・活動と成果の関係>

NGO により提案された事業には、プロジェクトサイトである 6MZ の地域住民 811 家族の内、600 家族以上が参加している。長期専門家の助言の下、事業が順調に実施されており、成果の発現に必要な投入と活動がなされていると判断できる。

また、一部住民からの反対によって中断している家畜市場に関する事業を除き、予定通りに計画は進んでいる。なお、草の根無償資金協力によって設置予定の家畜市場については、整地を終えた段階で一部住民から設置場所変更の抗議があった。今回、スレブレニツァ市長より「新たな場所で市の責任で整地を行う」との発言があり、事業が再開する見込みとなった。

<コスト>

個別案件としての予算規模は大きいですが、技術協力プロジェクトに匹敵する活動内容を主に長期専門家 1 名の投入で実施しており、投入コストに見合っていると判断される。

また、将来性のあるサブプロジェクトの選択、事業実施における助言及びモニタリングに加え、民族の和解が課題となっている当地において第三者が適切な調整を図ることが必要であり、長期専門家が現場に滞在することは適切な投入と判断できる。

(4) インパクト

本プロジェクトでは以下のとおり、上位目標の達成を見込むとともに、プロジェクトの実施に伴って想定される波及効果（負の影響）を最小限にするための方策を講じることとしている。

<上位目標の達成予測>

民族を超えた共同出荷組合等、経済上の相互依存関係が構築されつつあるほか、生活レベルでも交流が深まりつつある。こうした関係がシステム化され、有効に機能するようになれば上位目標は達成し得ると考えられる。

<波及効果（負の影響）を最小限にするための方策>

①民族・社会的階層によって異なる影響

プロジェクトは、基本的に両民族が平等に裨益することを基本理念としているが、同民族間では裨益者と非裨益者の差が顕在化しつつあることから、受益者の選定基準を明確化し、1人当たりの支援規模が大きくなり過ぎないように配慮している。さらに受益者の選定方法が明確になるように配慮している。

②民族間の交流によって生じる摩擦

本プロジェクトを通じて民族間の交流が活発化することで、両民族間の摩擦が一時的に生じる可能性がある。日本人専門家が現地に常駐することで、問題や意見の対立をその場で解消するようにしている他、スレブレニツァ市の関係者がプロジェクト関連の討議に出席することで、これら問題の早期解決に努めている。

(5) 自立発展性

本プロジェクトの自立発展性は、現段階では十分に担保されていないが、スレブレニツァ市役所の関与が高まっており、今後の改善が期待できる。

<組織・財政面>

自立発展性の確保のため、プロジェクトで実施される研修の一部について、スレブレニツァ市役所職員が講師を務める形で、農業普及の役割を担う場合が見られた。しかし、地域住民間で意見が対立した際に、問題を仲裁・調整する機能も今後は市役所が担う必要がある。

財政面に関し、専門家による個々の事業の収支予測では、機材の減価償却を考慮しても赤字とはならない。農業案件として異常気象等の影響を受ける恐れはあるが、協力開始時に懸念された農産物の販売先は、ある程度確保されている（パイナバスタ金曜市場等）。

<技術面>

新しい作物（今回の協力ではハーブ栽培が該当）以外については、現地にある農業技術が有効に活用されている（篤農家による支援等）。

しかし、NGOや受益者のヒアリング結果によれば、農産物の生産についてはプロジェクト実施の成果が出ているが、新たに出荷する農産物の販売先や安定的な販路を確保するためには、今後更なる改善が必要とされている。住民の経済的自立が達成されるためには、生産活動が収入に結びつく必要があり、すでに見出されている販路に加え、新たな販路を開拓するためのマーケティング活動の推進が望まれる。

3-2 結論

ほぼ唯一の産業である農業を通じて、民族の和解に資することを上位目標とする本プロジェクトでは、現地 NGO（1 つはムスリムのみ、他は両民族混成）の提案による事業を通じて、両民族共同での農産物の出荷や技術交流等を行なっており、その妥当性は比較的高く、目標及び上位目標の達成に向けたプロジェクトの進捗が見られる。

その要因として、以下の様な手順を踏んだことも一因と考えられる。

- ①2005年8月～9月（3週間）に専門家派遣予定者をあらかじめ派遣し、NGOに対する事業計画の素案を提示した。
- ②同年12月にNGOから事業の提案を受け、この頃から、民族バランス、民族調和等の言葉を用いて、事業受益者に係る両民族の割合や、プロジェクト対象地域の重要性を説明してきた。
- ③2006年3月からの本プロジェクト実施においても、派遣専門家が現場に滞在し、活動に係るモニタリングや助言を行っている。

一方で、紛争（内戦）によって確固とした行政機関を有しない状況での協力が求められる平和構築案件として、本プロジェクトの実施を通じて行政機関の関与を高めていく必要があったことから、自立発展性が十分担保されている訳ではない。しかし、スレブレニツァ市役所が、市長を中心に本プロジェクトによる協力を高く評価するとともに、これからの協力において積極的な関与を約束していることから、今後は改善が期待できる。

また、先般の国際司法裁判所（ICJ）判決²の余波として、ドナー及びRS政府からスレブレニツァ地域に対する支援が増加する傾向にあり（RS政府によるスケラニ・アクセス道整備事業³を含む）、一時的に地域振興のモメンタムが高まる等、本事業促進に寄与し得る外的要因も整備されつつある。

評価5項目の評価結果からは、本プロジェクトの残り期間において引き続き着実な協力を実施しつつ、特に自立発展性の改善に向けて、市役所の関与を強化するとともに、関係者のマーケティング能力の向上を図ることが必要と判断された。

² BiHが新ユーゴスラビア（セルビア・モンテネグロ）（当時）がジェノサイド条約に反して集団殺害を行ったこと等を訴え、損害賠償を求めているものに対する判決。判決では、スレブレニツァがボスニア内セルビア勢力に占領され、ムスリム男性7,000人が殺害されたことについて、集団殺害であったこと（サラエボにおける砲撃等は集団殺害に当たらないと判断）、また右スレブレニツァでの虐殺について、セルビアの責任は否定される一方で、集団殺害を防止する責任があること等が指摘された。
（<http://www.hurights.or.jp/news/0703/b05.html>を参考とした。）

³ プロジェクト対象地域内のスレブレニツァースケラニ間を含む道路の舗装計画。

第4章 提言と教訓

4-1 提言

上位目標である「民族間の和解」、「難民・避難民の帰還促進」のためには、経済的发展に加えて両民族の信頼醸成が重要である。現在開始されつつある共同出荷等、共同の作業を必須とするシステムをより強固にするには、引き続き協力（技術協力プロジェクトを想定）が必要と考えられる。

同協力では、スレブレニツァ市役所が関与しつつ、帰還民の再統合、難民・避難民の帰還促進、住民間の信頼醸成を目的とする。主な活動項目は以下のとおり。

- ①新たな事業を開始する際の必要最低限の支援
- ②住民の自立的な事業立案・実施能力の向上
- ③自立発展性強化のための行政の関与の強化

同協力の実施にあたっては、以下の点に留意する必要がある。

(1) MZ との関係

旧ユーゴ時代の最下位の行政機構として、自治活動のとりまとめをしていた MZ は、新生国家において機能を縮小した形で残っているが、現在は MZ 毎に特定政党の影響下に置かれ、半ば政治組織化している。MZ 側では「住民の代表として、私的利益に影響されずに事業を実施できる」と主張しているが、MZ を通した場合、地域の支配政党の支持者のみが受益者となる可能性は排除できない。但し、農業機械共同利用事業では Luka MZ を事業実施主体とした事業を試行しており、住民組織と市役所との間のチャンネルとしてその活用方法を再考すべきである。

(2) NGO による事業の実施

住民のニーズを反映した事業を実施できる住民グループ（NGO）がサブプロジェクトを行うという、現行のプロジェクト実施手法は有効ではあるが、市役所や MZ の理解を得ながら、これら事業を実施できるよう、事業の実施運営における関係者（市役所・MZ・NGO）間の役割分担にも留意して、事業の実施体制を構築すべきである。

(3) 自立可能なシステムの構築

今後の協力活動においては、住民が自らのイニシアチブに従って経済活動を効率化できるような、意思決定システムを構築することが想定されるが、同システムの核の部分に行政を関与させ、モニタリング機能、仲裁機能を制度化することが肝要である。

(4) 草の根無償協力で供与されるハーブ工場、家畜市場との相乗効果、RS 政府が舗装に着手した、アクセス道の整備による経済活動の活性化が有機的に連動すれば、本プロジェクトが地域振興の核となる蓋然性も高い。

ICJ 判決以降、スレブレニツァ地域においては、スレブレニツァ市の特別区への昇格に対する要請が高まり、上級代表事務所（OHR）が特使を派遣して問題解決を模索する等、政治問題化しているが、当該地域の状況は概ね落ち着いており、住民は、本プロジェクトで開始された事業を始めとする経済活動に専念しているという印象が強い。住民間の信頼醸成の萌芽を育成するには、今後の協力活動において、民族間の相互依存関係を基盤とした経済活動システム（農協の設立等）が構築される必要がある。こうした依存関係の強化は、難民・避難民の帰還条件の整備に寄与するものと思料される。

4-2 教訓

(1) 政府の関与について

2-2 実施プロセスに記載のとおり、平和構築案件、あるいは人間の安全保障案件については、上からのアプローチ（政府）は重要であるが、プロジェクトの開始時における関与は絶対条件ではなく、支援を実施する中で、行政の関与を最大限引き出すアプローチを確保することも検討すべきである。

(2) 慎重な受益者選定

民族の和解を推進する事業においては、両民族からのプロジェクトに対する信頼が極めて重要である。紛争中ムスリムの大量殺が行われたスレブレニツァ地域においては、他ドナーによりムスリムの帰還民に対する支援が多く行われている。しかしながら、多数のセルビア人も犠牲になっており、多くのセルビア人は不公平感を抱いている。また、帰還民同士であっても、帰還時期等により支援の受益状況も違い、不公平感や嫉妬心を持ちやすい。本プロジェクトにおいては、民族ではなく、帰還家族、母子家庭、戦争傷痕家族を中心として慎重に受益者を選定している。このことが住民の不満を最小限に抑え、プロジェクトへの信頼感を高めていると判断される。

(3) 長期専門家の現地滞在

日本人専門家が農業技術のみを指導するのであれば、プロジェクト実施地域の近隣の市や首都に滞在し、必要に応じてこれら地域に出向いて指導する形での対応も可能である。しかし、本プロジェクトの様に異なる民族による共同事業を実施する場合、第三者である専門家が同地域に居住することが望ましい。

これにより、同専門家が仲介役として機能し、民族間での決定が円滑に行なわれるようになる。

以上

付 属 資 料

1. 調査日程
2. 主要面談者
3. PDM
4. PDM 指標の達成状況と活動実績
5. プロジェクト事業収支見込表
6. BiH 人権難民省へのレター及び
スレブレニツァ市役所との合意書
7. ヒアリングメモ
8. 質問票への回答
9. 収集文献・資料一覧

日程:ボスニア・ヘルツェゴビナ国スレブレニツァ地域における帰還民を含めた住民自立支援 運営指導調査(中間評価)

日時	曜日	調査内容			宿泊地
		小林団長、吉田団員	橋本団員	大野団員	
5月22日	火			10:55成田発(OS052)16:05 ウィーン着、19:20ウィーン発 (JU313)20:45ベオグラード着	
5月23日	水		10:55 成田発(OS052)→16:05 ウィーン着、19:20 ウィーン発 (JU313)→20:45 ベオグラード着	事務所打合せ(援助調整専門 家、企画調査員を含む)	
5月24日～5月26日		中東・欧州部の調査			
1	5月27日	日	12:25 成田発(LH715)→17:45 ミュンヘン 着、19:25 ミュンヘン発(LH3502)→20:50 サラエボ着	20:50 ベオグラード発(JU108)→21:40 サラエボ着	サラエボ
2	5月28日	月	9:30 BiH外務省表敬-Mr.ファジヤン参事官 10:30 在BiH日本国大使館表敬-疊臨時代理大使、上田書記官 11:30 BiH人権難民省表敬-Mr.ムヨ局長、Ms.ヤクシッチ部長(プロジェクト担当) 14:30 UNHCR 16:00 UNDP	14:00 デヤン(モスタルIT案件) 16:00 OSCE-キーファー部長	サラエボ
3	5月29日	火	7:30 スケラニへ移動 10:30 スレブレニツァ市長表敬、打合せ-Mr.アブドゥラヒム市長 11:30 現場視察(~15:00) 16:00 JICA内打合せ		スケラニ
4	5月30日	水	9:00 現場視察(~13:00) 14:00 聞き取り-受益者 15:00 聞き取り-MZ 16:00 聞き取り-NGO		スケラニ
5	5月31日	木	AM ミニッツ案作成 14:00 スレブレニツァ市との協議・署名 UNDP及びスレブレニツァ帰還委員会ヒアリン グ	サラエボへ移動	小林・吉田:スケラニ 橋本・大野:サラエボ
6	6月1日	金	8:00 サラエボへ移動 14:00 BiH人権難民省報告-Mヨ局長、スラビツァ部長 15:00 BiH外務省報告-ファジヤン参事官 16:00 在BiH日本国大使館報告-疊臨時代理大使、上田書記官	9:00 HOPE-Mr.オティシシュ事務局長、Mr.カルギン	サラエボ
7	6月2日	土	資料整理	12:55 サラエボ発(AZ489)→13:45 ミラノ着、15:15 ミラノ発 (AZ786)→	サラエボ、橋本・大野:機中
8	6月3日	日	6:30 サラエボ発(JU109)→7:15 ベオグラード 着	→10:05 成田着	ベオグラード
9	6月4日	月	AM:JICAバルカン事務所報告、 PM:17:10 ベオグラード発(AZ537)→18:55 ミラノ着、21:40 ミラノ発(JL418)→		機中
10	6月5日	火	→16:25 成田着		

主要面談者

外務省

Mr. Sefik Fadzan	Minister-Counsellor, Head of Unit for Multilateral Economic Relations and Reconstruction
------------------	--

BiH 人権難民省

Ms. Slavica Jaksic	Head of Reconstruction and Sustainable Return Department
大泉泰雅氏	長期派遣専門家

スレブレニツァ市役所

Mr. Abdurahman Malkic	市長
Mr. Senad Subasic	Head of Economic and Development Department
Mr. Jovanovic Blagomir-Mico	Chief of Local Office in Skelani

NGO

Mr. Almir Muminovic	Dom
Mr. Dragic Glisic	Drina
Ms. Katarina Milovanovic	Orhideja
Ms. Brankica Boskovic	Podrinje 1
Mr. Mefid Aljic	Zadrugar
Mr. Dragomir Jakovljevic	Zadrugar

MZ representative

Mr. Milomir Trifunovic	MZ Kostolomci
Mr. Jahic Sead	MZ Krnjici
Mr. Dhyjuc Milan	MZ Skelani

在 BiH 日本国大使館

疊 二夫	臨時代理大使
上田 晋	一等書記官
木村みさき	草の根・人間の安全保障無償資金協力 外部委嘱員

JICA バルカン事務所

鹿野正雄	所長
辰巳知行	企画調査員
(BiH のコンタクト・ポイント)	
橋本和代	企画調査員

スプレニツァ地域における帰還民を含めた住民自立支援<<現行の事業>>

対象グループ: スプレニツァの帰還民を含めた地域住民

プロジェクト実施機関: 人権・難民省、スプレニツァ市役所、JICA
プロジェクト支援機関: サラエボ大学

対象地域: スプレニツァの6MZ

協力期間: 2006年4月～2008年3月

Narrative Summary	Objectively Verifiable Indicators	Means of Verification	Important Assumption
<p>Overall Goal</p> <p>対象地域における民族間の和解が促進され、両民族共存社会が再構築される。</p>	<p>他民族との共存に対する住民の意識の変化 難民、国内避難民の帰還数</p>	<p>民族に関する状況変化の観察、事例 市役所の統計</p>	<p>民族意識が高まる政治的な活動が展開されない。</p>
<p>Project Purpose</p> <p>対象地域住民による両民族合同事業が継続して実施される。 事業に関する両民族間の意思決定ができる。</p>	<p>両民族間による問題解決・決定の事例</p>	<p>プロジェクト報告書、各事業の報告書 プロジェクト報告書</p>	<p>地域の経済状況が悪化しない。 自然災害が起きない。</p>
<p>Outputs</p> <p>地域住民の経済的自立に向けた事業能力が開発される。 事業を通じて両民族間の会話・交流が活発になる。</p>	<p>提案された事業計画数 提案された事業計画の内容・質 事業計画・実施における住民間での協議の数・頻度・定期性 意欲</p>	<p>プロジェクト活動報告書 各事業の計画書 プロジェクト活動報告書、各事業の報告書、議事録 住民意識調査</p>	<p>物価の高騰が無い。</p>
<p>Activities</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 両民族合同による農業分野の事業計画を策定する。 2. 両民族合同による農業分野の事業を実施する。 <ol style="list-style-type: none"> 2-1. MZによる事業の実施 2-2. NGOによる事業の実施 2-3. 研修会の実施 2-4. 実施事業の評価 3. グループによる農産品の生産・販売活動の可能性を検討する。 4. プロジェクト実施機関を含む関係機関間で協力成果を共有する。 <ol style="list-style-type: none"> 4-1. 活動成果を発表するためのセミナーを開催する。 	<p>Inputs</p> <p>BiH側</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市役所の助言 ・MZ総代の支援 	<p>日本国側</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門家の派遣 ・必要な機材の供与 	<p>Precondition</p> <p>事業実施に係る地域住民からの大きな反対が無い。</p>

スプレニツア地域における構成員を含めた住民自立支援 PDMの推進の達成状況と活動実績

プロジェクト目標	指標	実績	評価	課題	
<p>プロジェクト目標</p> <p>1. 対象地域住民による同民族合同事業が、継続して実施される。</p> <p>2. 事業に関する同民族間の意思決定ができる。</p> <p>アウトプット</p> <p>1. 地域住民の経済的自立に向けた、事業能力が開発される。</p> <p>2. 事業を通じて、同民族間の会話・交流が活発になる。</p>	<p>指標</p> <p>同民族間による問題解決・決定事例</p>	<p>1. 全ての事業に同民族が参加しているが、住民独自による継続が可能までには至っていない。ドナー、NGO等による事業牽引や助言が必要な段階である。</p> <p>2. 事業実施において発生する問題の解決はNGOと住民の協働で大部分は対処されている。どうしても解決できない問題は、プロジェクトの助言を仰ぐ段階である。</p> <p>1. 計画事業は9事業（技術協力プロジェクト事業7、草の根無償事業2）である。</p> <p>2005年8月から11月にNGOによって基本計画が立案。12月から2月にNGOとプロジェクトによる計画の最終立案作成、2007年3月から事業は実施され、現在全事業において成果が現れつつある。</p> <p>2. NGOが主催して行われる受益者間の協議は、1事業当たり10回以上7年実施された。これに研修（37コース/年）時の話し合いを加えれば、全事業合計100回近くの話し合いが行われている。また、NGO間の話し合いは、定期的に2回以上/月実施意欲は極めて大きい。</p>	<p>この1年間で、住民による事業継続へのスタート地点に達したと考える。2年目においては、持続へのポイントである。</p> <p>現在、事業に関する問題解決・決定において同民族間の協力は低くないが、民族自覚に係る問題やコミュニケーション開発に係る協議が、自発的に行われる段階には達していない。</p> <p>予算・対象受益者数、専門家数から考えて事業数は最大限と考える。</p> <p>事業が予想以上の成果を生み出している事から、内容・質共に適正であったと考える。</p> <p>NGOと受益者間の協議は面談自発的に行われており、プロジェクトが主導する事は少ない。つまり、事業に関する協議はプロジェクトの関与無しに可能な段階に達している。</p> <p>実施されている事業全般に、受益者が積極的に参加していると考える。15000株の果樹苗が2週間で植え付け完了した事からも、意欲が向える。</p>	<p>C</p> <p>C</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>A</p> <p>B</p>	<p>現在の段階では、プロジェクト終了後は事業やグループ活動が終息する可能性は充分にある。</p> <p>全ての問題解決に、住民とNGOや行政間で解決する必要がある。必要性・重要性を認識させる必要がある。</p> <p>特に無し</p> <p>事業間で受益者当たり支援額の開きが大き過ぎる。余剰的に受益者の努力だけでは普及不可能な事業が含まれている。</p> <p>特に無し</p> <p>継続して意欲持続への対応が必要である。</p>
<p>活動</p> <p>1. 同民族合同による、農業分野の事業計画を策定する。</p> <p>2. 同民族合同による、農業分野の事業を実施する。</p> <p>2-1. MZによる事業の実施</p> <p>2-2. NGOによる事業の実施</p> <p>2-3. 研修会の実施</p> <p>2-4. 実施事業の評価</p> <p>3. グループによる農産品の生産・販売活動の可能性を検討する。</p> <p>4. プロジェクト実施機関を含む関係機関間で、協力成果を共有する。</p> <p>4-1. 活動成果を発表するためのセミナーを開催する。</p>	<p>1. 外部要因で事業変更を行ったが、事業計画は2007年3月に終了した。その後大きな変更は無い。</p> <p>2. 事業計画に沿って実施されているが、状況変化により詳細変更は見られる。</p> <p>2-1. 農機共同利用事業、牧草種子配布事業は、MZ主導で行われている。</p> <p>2-2. 9事業をSNGOが実施している。</p> <p>2-3. 37コース、885名の受講者であった。</p> <p>2-4. 全事業共に、期待以上の進捗と成果を生み出していると考えられる。</p> <p>3. 全ての事業でグループによる勉強会、販売が行われている。</p> <p>4. ドナーとNGOの見学は5件あった。しかし、成果を利用するまでには至っていない。</p> <p>4-1. 2007年11月の予定</p>	<p>2006年3月までに実行計画が策定できたので、プロジェクト開始時から実質の活動ができた事は高く評価できる。</p> <p>予想以上の進捗と成果を上げている。</p> <p>当初は2008年度以降の課題と考えていたが、2007年7月頃より実施できた。</p> <p>家畜市場で問題が見られるが、その他の事業は予定通り進んでいると考えられる。</p> <p>温室野菜、イチゴ生産、ハーブ生産、果樹植え付けの事業において研修の成果が大きい。</p> <p>初年度から本格的な販売まで実施できた事は、予想外の進捗であった。</p> <p>勉強会、販売、作業において共同活動が見られる。100%グループ活動は不可能であり、現状の相互協力形態で十分と考える。</p> <p>関係機関、ドナー共に関心を高く評価する。しかし、手法を股の入れられる段階には達していない。むしろ、近隣地域での事業実施を依頼していく。</p> <p>予定通り実施する。</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>D</p>	<p>特に無し</p> <p>特に無し</p> <p>特に無し</p> <p>家畜市場は政治環境に影響されている。早急に解決する必要がある。</p> <p>現在の研修スタイルで内容の充実を目指す。対象者について、直後事業に参加していない住民まで拡大する事も考えている。</p> <p>特に無し</p> <p>グループ活動を更に活発化させ、連携的な活動に改善する必要がある。</p> <p>更なる成果の紹介を行なう。</p>	

【補充事項】 A. 当初計画を達成していないが、進捗はあった。 B. 当初計画をおおむね達成した。 C. 当初計画を達成していないが、進捗はあった。 D. 当初計画を達成し終わらず、改善が必要である。

プロジェクト事業収支見込表

事業名	事業内容	初年度事業規模	事業期間	投入(EUR)	減価償却(EUR)	年間消耗、維持管理経費(EUR)	年間予想収益(EUR)	年間予想収益(EUR)			減価償却分を差し引いた収益合計純収益	
								計算根拠	合計	収益計算		純収益 (総収入-消耗 維持管理費)
1. 牧草生産事業												
① 干草生産サービス	牧草の刈り取りから乾燥までの作業の請負事業、サイロ用トワモロン収穫請負事業	20ha (2007年度分)	20年(当地の標準農機原価償却期間)	農機 26,525		燃料 100L×0.97/L=1,940 オペレーター 20ha×8hr×2hr=320 機械保守管理 20ha×3/ha=60	2,320 (NGO負担)	20ha×153/ha(サービス料)=3,060	740 全額NGOの収益	0	422 NGOの収益 (NGOの収益から減価償却分を負担した場合)	
② 牧草地改善事業	放置牧草地の再生支援事業	20ha (2007年度分)	6年採草(1回の採草期で採草期3回採草)	種子 5,113		燃料 50L×20ha×0.97/L=970 オペレーター 20ha×4hr×2hr=160 機械保守管理 20ha×3/ha=60	1,190 (受益者負担)	20ha×600pack/ha/2回×1.5/pack=18,000	18,000	16,810 全額受益者(100名)の収益	0	
③ 干草生産販売事業	放置牧草地での販売用は市草生産事業	6ha (2007年度分)	6年採草(1回の採草期で採草期3回採草)			燃料 50L×6ha×0.97=291 オペレーター 6ha×4hr×2hr=48 機械保守管理 20ha×3/ha=60	357 (NGO負担)	6ha×600pack/ha/2回×1.5/pack=5,400	5,043	4,035 (80%) 受益者(12名)の収益	1,008(20%) NGOの販売手数料収益	
2. 農機共同利用事業	農機による耕起、作物輸送請負事業	50ha (2007年度分)	20年	農機 33,243	農機20年 1,662/年	オペレーター、燃料、保守管理費は収益の70%を設定	7,518 (NGO負担)	30ha×358/ha=10,740	3,222 (収益の30%)	0	1,560 NGOの収益	
3. 温室野菜生産事業	温室での野菜生産販売事業	6棟 (計600㎡)	7年	温室 10,990	温室7年 1,570/年	種子 600㎡×0.5=300/年 農薬・肥料(有機農業) 0	300 (受益者負担)	600㎡×4回収穫×0.92/㎡=2,208	1,908	1,908 受益者(6名)の収益	338 受益者の収益	
4. イチゴ生産事業	露地、温室でのイチゴ生産事業	9棟 (計900㎡)+ 露地900㎡	7年	温室・灌漑設備 6,256 イチゴ苗 1,610	温室・灌漑設備 7年 893/年 イチゴ苗3年 536/年	農薬・肥料(有機農業) 0 包装 767/年	767 (受益者負担)	1,800㎡×5kg/㎡×1kg=9,000	8,233	8,233 受益者(9名)の収益	6,804 受益者の収益	
5. 養蜂事業	蜂箱生産、加工事業	100養蜂箱	10年	養蜂箱、機材 8,145	養蜂箱、機材 10年 815/年	特に無し	0	100箱×40kg/箱×3.3kg=13,200	13,200	13,200 受益者(40名)の収益	12,385 受益者の収益	
6. ハーブ生産事業												
① 生ハーブ生産事業	ハーブ生産	5ha (2007年度分)	5年	種子 546	ハーブ刈取年数 5年	農薬・肥料(有機農業) 0	0	5ha×4,000kg×0.15kg×2回/年=6,000(生販売の場合)	6,000	6,000 受益者(20名)の収益	販売への手数料 (金額未定)	
② ハーブ乾燥事業	ハーブ乾燥	2ha (2007年度分)	20年	乾燥施設 34,000	施設20年 1,700/年	生ハーブ2,400、乾燥経費 2ha×2回×100/ha=400	2,800	2ha×400kg/ha×3.6kg×2回=5,760	2,920	0	1,220 NGOの収益	
7. キプロコ生産事業	トンネル内でのマツシユルーム生産事業	50mのトンネル	10年	トンネル整備 10,225	施設10年 1,022/年	菌糸 500×5回=2,500 包装 300×5回=1,500	4,000	750kg×5回/年×2kg=7,500	3,500	3,500 受益者(6名)の収益	販売への手数料 (金額未定) 2,478 受益者の収益	
8. 果樹植え付け事業												
① 生果実生産	果樹植え付け 青果実生産	15,000株 3年後から収穫開始	40年	苗木 15,980	果樹生産年数 40年 399/年	農薬・肥料(有機農業) 0	0	15,000株×15kg/年×0.77=17,325	17,325	17,325 受益者(236名)の収益	0	
② ラキア生産	ラキア生産	500Lのラキア	20年	乾燥施設 34,000	施設20年 1,700/年	燃料、従業員 燃料7,000kg、 燃料、従業員 200kg×2.5kg=500	未定	500L×2.5L=2,500	2,500	2,500 NGOの収益	1,300 NGOの収益	
③ ドライブラム生産	ドライブラム生産	200kg生産	20年			燃料、従業員 燃料7,000kg、 燃料、従業員 200kg×2.5kg=500	500	200kg×2.5kg=500	500	500 NGOの収益	1,148 Luka MZの収益	
9. LUKA農機共同利用事業	農機による耕起、作物輸送請負事業	20ha (2007年度分)	20年	農機 20,000	農機20年 1,000/年	オペレーター、燃料、保守管理費は収益の70%を設定	5,012	20ha×358/ha=7,160	7,160	0	2,148 Luka MZの収益	



For a better tomorrow for all.
Japan International Cooperation Agency

June 1, 2007

Your Excellency Mr. Safet Halilovic
Minister of Human Rights and Refugees,
Bosnia and Herzegovina

Result of Mid-Term Evaluation Study Team
for the Community Development Project in the Srebrenica Municipality

The Japanese Mid-term Evaluation Team organized by JICA visited the Bosnia and Herzegovina from May 27 to June 3, 2007, for the purpose of reviewing the activities. The results and recommendations of the study were shared by Srebrenica Municipality as attached Memorandum.

To realize the recommendation the following measures are necessary:

- 1 The proposal for the new project shall be submitted from Srebrenica Municipality to the Ministry of Foreign Affairs via Ministry of Human Rights and Refugees by the end of August 2007.
Activities and target areas will be decided through the discussions between Srebrenica Municipality and JICA in due course, after the proposal of the new phase requested by Srebrenica Municipality.
- 2 To fill the gap between the termination of the on-going project and starting of the new project for continuous activities, proposal for extension of duration of the expert shall be submitted by the end of July 2007.

Mr. Nobuyuki Kobayashi

Leader, Mid-term Evaluation Study Team,
Japan International Cooperation Agency

CC: Municipality of Srebrenica

Ministry of Foreign Affairs

Embassy of Japan in Bosnia and Herzegovina

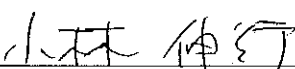
**MEMORANDUM BETWEEN
THE JAPANESE MID-TERM EVALUATION STUDY TEAM AND
THE MUNICIPALITY SREBRENICA
ON
JAPANESE TECHNICAL COOPERATION
FOR THE COMMUNITY DEVELOPMENT PROJECT
IN THE SREBRENICA MUNICIPALITY**

The Japanese Mid-term Evaluation Team (hereinafter referred to as “the Team”) organized by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as “JICA”) and headed by Mr. Nobuyuki Kobayashi visited the Bosnia and Herzegovina from May 27 to June 3, 2007, for the purpose of reviewing the activities of the Community Development Project in the Srebrenica Municipality (hereinafter referred to as “the Project”).

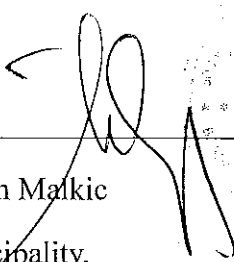
During the stay, the Team exchanged views and had a series of discussions with the Bosnia and Herzegovina authorities, related organizations and other stakeholders.

As a result, both JICA and Municipality Srebrenica agreed upon the issues referred to in the document attached hereto.

Srebrenica, May 31, 2007



Mr. Nobuyuki Kobayashi
Leader,
Mid-term Evaluation Study Team,
Japan International Cooperation Agency,
JAPAN



Mr. Abdurahman Malkic
Mayor of Municipality,
Municipality Srebrenica
BOSNIA AND HERZEGOVINA

ATTACHMENT

1. Introduction

1.1 Objective of the study

The study team examines the progress of the project overall through several interviews, documents review and field visit, discusses with Bosnian authorities concerned on the direction of the Project afterwards, and signs memorandum.

1.2 Member of the study team

No.	Name	Job title	Occupation
	<u>Study Team</u>		
1	Mr.Nobuyuki KOBAYASHI	Team Leader	Team Director, Field Crop Based Farming Area Team II, Group II, Rural Development Department, Japan International Cooperation Agency (JICA)
2	Dr.Keiichi Hashimoto	Peace Building	Senior Advisor, Institute for International Cooperation, JICA
3	Ms.Hiroe Ono	Cooperation Planning	Senior Country Officer, Middle East II /Europe Team, Regional Department V (Middle East of Europe), JICA
4	Mr.Kazuhiro YOSHIDA	Evaluation Management	Senior Program Officer, Field Crop Based Farming Area Team II, Group II, Rural Development Department, JICA

1.3 Schedule of the study

Date	Day	Schedule
28-May	Mon	Courtesy call to Embassy of BiH Courtesy call to BiH Ministry of Foreign Affairs (MOFA) Courtesy call and hearing from BiH Ministry of the Human Rights and Refugees (MOHRR)
29-May	Tue	Move to Skelani, Courtesy call and hearing form Srebrenica Municipality Field Visit
30-May	Wed	Field visit Hearing from NGO Hearing from Chairmen of MZ Hearing from beneficiaries
31-May	Thu	Drafting Memorandum Meeting with Srebrenica Municipality and Signing of Memorandum Hearing from UNDP Hearing from Srebrenica Municipal Return Commission
1-Jun	Fri	Move to Sarajevo

		Report to BiH MOHRR Report to BiH MOFA Report to Embassy of BiH
--	--	---

2. Outline of the Project

To promote return and reintegration of refugees and IDPs through agricultural activities in Skelani region, a long-term expert has been dispatched since in March, 2006 for two years. As sub-projects, various economic activities have been conducted through the initiative of local people.

3. Results of the Study

- Nine (9) agricultural sub-projects designed by local people have been implemented as listed below.
 - Group using of agriculture machinery
 - Fruit planting
 - Herb production
 - Strawberry production
 - Hay Production
 - Apiculture
 - Vegetable production in the greenhouse
 - Mushroom production
 - Group using of agriculture machinery by Luka MZ
- The presence of JICA expert in target area is regarded as key to the proper identification of needs, smooth implementation and monitoring of the project.
- The sub-projects have strengthened the cooperative activities of inhabitants and have started to make profits and are expected to be economically sustainable. These profits have contributed to increase incomes of participants of these activities. However continuous efforts are necessary to promote further cooperation and build confidence between inhabitants.
- The reintegration of returnees which is the fundamental condition for further return of refugees and IDPs has been enhanced through project activities.
- The project is implemented in good cooperation with Srebrenica Municipality, local NGOs, inhabitants of target area and JICA.
- The positive impact of the project has appeared in the social aspects of the targeted area, such as mutual visit to religious events.

1.11



4. Recommendations

(1) For consolidating and developing the cooperative relationship by inhabitants through agricultural activities, it is recommended to continue the cooperation which will promote sustainable return, reintegration of returnees and confidence-building under the guidance of Srebrenica Municipality.

Followings are measures to be taken to proceed to the new phase by Japanese side and Municipality of Srebrenica.

Srebrenica Municipality

- (i) Provision of office spaces and necessary facilities for the Japanese Experts
- (ii) Assignment of counterparts
- (iii) Local cost (e.g. expenses for utilities)

Japanese side

- (i) Dispatching Experts
- (ii) Provision of materials necessary for the implementation of the project

Activities and target areas will be decided through the discussions between Srebrenica Municipality and JICA in due course, after the proposal of the new phase requested by Srebrenica Municipality.

(2) When Japanese side judge that the project cannot be continued due to the change of the social situation in the region, JICA shall stop to proceed the project.

(END)



ヒアリングメモ

日時：2007年5月28日 9:30～10:00

場所：Ministry of Foreign Affairs

面談者：Mr Shefik Fadjan

小林 T 長、橋本専門員、大野職員、吉田職員、辰巳企画調査員、橋本企画調査員

(概要)

- スレブレニツァの虐殺に関する ICJ の判決の後、スレブレニツァは政治的に不安定になっている。経済状況も良くないので、この地域への支援は必要である。既にいくつかのドナー及び国内の支援の話は聞いている。
- 大泉専門家の報告は 2、3 カ月前に聞いており、良い活動をしていると考えているが、住民の所得向上、農作物の多様化、マーケティング、対象地域の拡大等、今後も活動課題は多いと考える。
- スレブレニツァ地域を (RS、FD のどちらにも属さない) 特別区にすることについては、今後どの様な判断が、誰によってなされるかは分からない。
- RS のドディック首相はスレブレニツァに対して、電力等のインフラ整備を進める予定。
- (今後延長・新規プロジェクトの手続きに関連し、スレブレニツァ市役所から外務省に要請書を送付する方法について問うたところ) 直接市役所から要請書が送付された場合は、人権・難民省は必要であるので、外務省から確認の作業を行う。

日時：2007年5月28日 10:30～11:45

場所：在 BiH 日本国大使館

面談者：疊臨時代理大使、上田書記官

小林 T 長、橋本専門員、大野職員、吉田職員、辰巳企画調査員、橋本企画調査員

(概要)

- 大使館としては、本件 (スレブレニツァ地域における帰還民を含めた住民自立支援) と、モスタル IT の案件を最重要案件と考えており、自分自身も現場を複数回訪問し、日本国政府がバックアップしているという姿勢を見せているし、今後でもできる限りサポートしたいと考えている。非常に難しい案件であるが、道筋が見えつつあるところ、今後数年間は続ける必要があると考えている。
- OHR のスレブレニツァ特使となった前米国大使 (クリストファー・ボンド) に、本件について説明をしたところ、非常に興味を示しており、6 月にも現場の見学をしたいとのことであった。
- 本件については、現場に専門家がいることを評価されているし、ヴィジビリティもある。

日時：2007年5月28日（月）11:30～12:00

場所：BiH 人権難民省

面談者：Mrs. Slavica Jaksic、Mr. Mujo Jejna (挨拶程度)

小林 T 長、吉田職員、橋本専門員、大野職員、大泉専門家、橋本企画調査員、辰巳企画調査員

(概要)

- (Ms. Jaksic の挨拶として) 大臣は JICA スケラニプロジェクトに大変興味を持っていること、今調査の結果も報告したいこと、このプロジェクトの成功は他の類似案件の励みになること。
- (プロジェクト及び大泉専門家の任期延長の要請が可能であるかとの問いに) 大臣が決めること。延長の必要性の説明が必要なので、JICA から説明が欲しい。私達はあまり関わっていないので状況が分からない。
- 要請書は、スレブレニツァ市役所→BiH 人権難民省→外務省のルートでよい。BiH 人権難民省と外務省が平行してよい。
- ICC (国際刑事裁判所) のスレブレニツァ判決の後、当地への支援は増えている。
- (調査報告の際に大臣に面会したいとの要望に) 正直言って難しいと思う。
- (Mujo 局長が挨拶程度に面会場に現れ、) プロジェクトに関しては担当者である Ms. Slavica に一任しているので、彼女に要望等伝えて欲しい。

日時：5月28日（月）14:30～15:30

場所：UNHCR 事務所

面談者：Mr. James Lynch, Representative

小林 T 長、吉田職員、橋本企画調査員

(概要)

BiH における UNHCR の活動について、Mr. Lynch より以下のとおり概要が説明された。

- ボスニア紛争において発生した約 220 万人の難民・国内避難民の内、その半分の 100 万人は紛争前の居住地に帰還することができた。
- 現在、帰還状況は遅々としており、約 13 万 4 千人の避難民が存在する。
- 約 82% の避難民は、未だに旧住居が修復されないままでおり、主に他の人の所有する個人住宅 (家及びアパート等) に住んでいる。
- 難民収容センター (Collective Concentration Center) に住んでいる避難民の数は約 7,000 人であり、難民センターを閉鎖のためのプロジェクトにオランダ国政府が約 4 百万 US\$ 出資したが、収容所に過剰に依存している難民たちは、センターを出るのに難色を示している。
- 難民・避難民問題を悪化させている原因の一つが、BiH の経済状況である。経済の移行期にある当国では失業率が高く、元の居住地に戻っても職が無いことが、帰還を遅らせている主要な原因である。

(小林 T 長より)

- JICA はスレブレニツァ市において、帰還民支援のコミュニティ開発プロジェクトを展開しており、現地においても UNHCR との良い協力体制を築き、互いに避難民の更なる帰還促進に向けて、引き続き尽力していきたいと考える。

(Mr.Lynch)

- UNHCR は縮小傾向にあり、来年度でツヅラとモスタルの事務所を閉鎖する予定である。サラエボ事務所においては、未だ統括事務所としての処理事項や、法的手続き（多くの asylum seeker、亡命申請者の存在）を残しており、難民の庇護や倫理的な観点からもすぐに閉鎖する予定は無い。

日時：2007年5月29日 10:30～11:00

場所：スレブレニツァ市役所

面談者：Mr. Abdurahman Malkic 市長

Mr. Nermin Alivukovic 市議会議長

Mr. Senad Subasic 経済開発部長

Mr. Jovanobic Blagomir-Mico スケラニ出張所所長（農業専門家）

小林 T 長、橋本専門員、大野職員、吉田職員、辰巳企画調査員、橋本企画調査員、大泉専門家、ルビシャ（ローカルコーディネーター）、ベスナ（プロジェクトスタッフ、通訳）

(概要)

(小林 T 長より調査団の目的を説明した後の) 市長のコメント、当方からの質問に対する回答は以下のとおり。

- プロジェクトはこれまで順調に進捗しており、(プロジェクトサイトの) 人々はプロジェクトの運営についても学ぶ機会を得ている。市や関係者はプロジェクトの成功のために最大限の努力をしてきた。
- 帰還民は増えており、住民の協力関係もできつつあるが、道路の建設（工事は開始されている）等、まだ行なうべきことは多い（具体的な内容について問うたが、回答無し）。
- 現地の雰囲気は改善されており、住民の信頼（Trust）が醸成されつつある。
- （延長した場合、市役所の役割が大きくなるが、その準備ができているかとの問いに対して）C/P の配置は予定している。
- JICA が引き続き当地域に留まる必要はある。JICA の哲学を理解し始めたところであり、ここで協力を終了すると協力の成果は残らないであろう。
- 協力を継続した場合、プロジェクトの目標として「農業活動を通じた信頼醸成」と記載することには問題無い。
- （UNDP 等他ドナーのプロジェクトとの違いについて問うたところ）JICA は現場調査に基づき、受益者との直接のコンタクトの下、プロジェクトを実施しているので、より公平（Fair）であり、良い成果が約束されている。他ドナーは会議中心で業務が進められる。

調査団から、草の根無償による家畜市場の場所問題の、早い解決について申し入れ、現在担当 NGO が大使館宛にレターを書いているところ、後日大泉専門家と相談することとなった。

日時：2007年5月30日 14:00～15:00

場所：プロジェクトオフィス（スケラニ）

面談者：受益者

Mr. Dimitrijevic Vukasin イチゴ栽培

Mrs. Aljic Refisa イチゴ栽培

Mr. Aljic Sahin 牧草生産

Mrs. Muminovic Z マッシュルーム栽培

Mrs. Muminovic Semsa マッシュルーム栽培

Mr. Milomir Pecenica 果樹(オルヒデヤ)

Mr. Milan Katanic 養蜂

Mr. Momcilo Jelisavcic 牧草生産（種）

小林 T 長、大野職員、橋本企画調査員、ベスナ（プロジェクトスタッフ、通訳）

（概要）

プロジェクトに対する意見聴取した結果は、以下のとおり

- イチゴは 1988 年から栽培していたので、技術的な問題は無かったが、再開するにあたって、グリーンハウスや苗の支援が必要であった（現地の篤農家が他の住民に対して、技術的サポートを実施している）。今年の結果を見て、より多くの住民がイチゴ栽培に興味を持っている。イチゴの栽培は収益を上げているが、更に経験を積んで、来年は収益が増大するであろう。今後拡大するために更なる支援を希望するが、現状で収益は上がっているので、支援が無くとも活動は十分に継続可能である。
- JICA がプロジェクトを開始する前にも UNDP にプロポーザルを出したことがあるが、回答を得られなかった。
- 今後希望するプロジェクトは、家畜、小麦の収穫のための農業機械、観光プロジェクト、養蜂（蜂蜜のパッケージも含め）も考えられる。
- 牧草生産のための農業機械はこれまでのところ問題無く、共同利用されている。1 カ月毎にセルビア人、ムスリムの管理としている。しかしながら、今年は牧草生産が増えたので、農業機械の使用回数が増えることになる。共通の利益（common interest）を目指しているので、民族を超えた共同作業は問題無い。共同出荷が始まっている。
- プロジェクトが終了しても、事業に関する住民間の話し合いは続けられるであろう。
- 大泉専門家の、農業に関する専門的な知識は必要である。

プロジェクトの実施方法については、参加者は満足しており、特に意見は無かった。受益者の選定に関しても、大半の参加者が満足しており、本プロジェクトにおいては

慎重な対応がされていることについては、参加者全員が認めていた。しかしながら、ムスリムの帰還者への支援の増大を要望する参加者も1人おり、受益者の選定が難しいことが窺えた。

NGOからの働きかけに応じて活動に参加している農家（キノコ栽培、干草生産、果樹栽培）もいれば、自らの発意でNGOと共同で参加しているとの農家（イチゴ栽培）も見受けられた。

日時：5月30日（水） 14:00～15:00 場所：プロジェクトオフィス（スケラニ） 面談者：受益者（それぞれの事業から2名ずつ） 吉田職員、橋本専門員、辰巳企画調査員
--

（概要）

養蜂事業の受益者

- 出荷のためのパッキングマシンが欲しい。
- 全ての養蜂生産者は、有利な取引のために団結するべきだ。
- 多くの同業者は協同体をつくりたいと言っている。JICA事業に含まれていない同業者も言っている。
- 市場を見つけることは易しくない。
- このプロジェクトは平和に役立っている。私はムヨ（ムスリム系）、彼はゾラン（セルビア系）だが、いつも会ってアイデア交換している。

ハーブ事業の受益者

- 今までは順調。初めてのことなので、収穫の段階でのアドバイスが欲しい。
- 協同体をつくることは良いアイデアだと思うが、とりあえず今年の収穫を見てみないとイメージが沸かない。
- 勉強会や研修に参加して栽培方法を学びたい。（その様な機会はあるか、との受益者の問いに）協同体があれば勉強会等も企画できるし、研修員を送ったり受け入れたりすることができるようになる。

温室野菜事業の受益者

- 順調だが、市場開拓が更に必要。
- 今回のタマネギは、ほとんどタダで売ったようなもの。「量」が増えれば有利に売れる。

全般

- やはり市場開拓が最大の関心事。
- 道路ができたら市場は広がるかも。
- JICA事業のおかげで私達のできるものが広がっている。
- ハチミツ生産の協同体が Osatija MZ にあるらしい。

日時：5月30日（水） 15:00～16:00

場所：プロジェクトオフィス（スケラニ）

面談者：MZ 代表者、Mr. Milomir Trifunovic（MZ Kostolomci）、Mr. Milan Djukic（MZ Skelani）、Mr. Sead Jahic（MZ Krnjici）
小林 T 長、吉田職員、橋本専門員、大野職員、辰巳企画調査員、橋本企画調査員

（概要）

MZ 側の発言

- MZ の役割は、住民のニーズを汲み上げ、市に伝えることであると思われるが、現存の問題は多く、また深刻であり、実際はアドミニ的な仕事に留まっている。
- （Kostolomci MZ では）多くの場所で電気、水が不足しており、インフラ整備に関するニーズがある。
- スレブレニツァ市は、住民のニーズに対し何の策も講じていない。ドナーは NGO を通して支援を行っているが、地域住民には届かず、人々の不満は募る一方である。
- NGO は、自分達の利益のみのために活動を行っているものと思われる（その根拠として、NGO の構成人員が家族や親戚、兄弟であることが挙げられた）。
- （Krnjici MZ 代表）MZ は、地域で行われている事業全般にわたり、その内容を把握し、実施に積極的に関与するべきである。また、ドナー間の調整も進んで行うべきである。

質疑応答

Q.（JICA）：MZ と市の関係は？

A.（MZ）：市に比較すると MZ の役割はそれほど大きくない。市は MZ に対して十分な労働環境を与えていない（オフィススペースの確保等）。

Q.（MZ）：なぜ NGO を支援し、MZ を通さないで事業を実施するのか？

A.（JICA）：その認識は誤解であり、MZ（行政）を通して地域住民を支援することも意図しており、行政の関与の増大を図りたいと考えている。

Q.（JICA）：JICA は、地域住民の経済的自立を支援するためのコミュニティ開発事業を実施しており、住民に支援が行き届くことを最重要視している。その手段として、NGO を介さない別の方法があるならば、臨機応変に対応する準備はある。NGO を通さない良い方法が他にあるか？

A.（MZ）：今のままでは、全ての利益は NGO に行ってしまう。供与された機材は、事業終了後には NGO によって売却されると思われる。事業の実施は MZ を通して行うべきである。

当初、JICA が NGO を介して事業を実施すると決断した。そして、事業を通して「利益」が生み出され、事業の対象受益者にその「利益」が届いていない現状が問題である。

JICA：JICA 側も、支援が受益者に行き届く最善の策を検討する。スレブレニツァ市と MZ、地域住民の良い協力関係を構築する必要性がある。

JICA:MZ のみで事業を実施すれば、NGO から不満が上がる。今後は open competition として、両者に平等にチャンスを与えるべきか、更に検討する。

日時：5月30日（水） 16:15～17:30

場所：プロジェクトオフィス（スケラニ）

面談者：スケラニ NGOs（5NGO：Dom、Drina、Zadrugar、Orhideja、Podrinje1 の代表者）

小林 T 長、吉田職員、橋本専門員、大野職員、橋本企画調査員、辰巳企画調査員

（概要）

- 受益者の選定基準
 - ① 帰還民優先（セルビア系、ボスニア系 50：50）
 - ② 母子家庭優先
 - ③ 事業への参加意志
- 全ての NGO が同じ選定基準を用いている。
- 活動は受益者のニーズからデザインされる。
- イチゴ事業は好調で、需要に供給が追いつかない。それを見て多くの参加申し込みがある。そこに政治的な話は無く、経済的な原理のみ。ロゴでスケラニブランドが認識されつつある。道路整備の話は嬉しい驚きである。
- より多くの住民が事業に興味を示している。扉は常にオープン。
- NGO のより良い活動（＝利益）がまず第一。民族の違いはそれほど大きなことではない。
- プロジェクト開始当初から、両民族による共生は始まっている。
- 当地に定住しない人は、政治的な理由ではなく、経済的な理由で去っていく。
- （両民族による協力の具体例は、との問いに）毎日一緒に働いて、事業の相談をして、話し合いを継続していることが最高の例。
- （JICA が去った後の自立発展性については、との問いに）生産活動はサイクルに乗るものなので、既に自立していると言える事業もある。これからは「量」の確保がバイヤーの興味を引く。
- 事業はまだ第一サイクルの段階で、自立発展性があるかどうかを判断するのは時期尚早。財政・技術援助が当面は続いて欲しい。
- 温室野菜事業では共同出荷を行った（タマネギ、レタス、大根等）。集荷を行い、ビエリナ、バニャルカ等へ代表者 2 名で売りに行った。農協の原型ができつつある。
- 農業省からの助成金のシステムが FD にはあるようだが、RS には未だ無い。いずれにせよ、ここからは遠い。大泉専門家による技術援助の類いは、農業省には期待できない。
- （JICA が去った後、MZ がその役割を担えるか、という問いに対しては）受益者は、全員 MZ 長の政党の人間になるだろう。MZ 長が住民集会で挙手で決められている中、受益者は MZ 長に挙手した人のみになってしまうだろう。

- セルビア系 NGO 代表が、ムスリム系 NGO 代表のバイラム（断食明けの祝祭行事）に招かれ出席する等の交流も行われている。その他、町で一緒に食事をしたり、農作業の合間に、木の下で一緒にお弁当を食べたり、携帯電話で相談をしたり等、日々のコミュニケーションは自然と生まれている。
- プロジェクトを通じて、マネージメントについても学んだ。

日時：5月31日（木） 15:30～16:30 場所：UNDP 事務所（スレブレニツァ） 面談者：Mrs. Danijela Huseinbasic, Local Governance Coordinator 小林 T 長、吉田職員、大泉専門家

（概要）

- スレブレニツァ市を対象とした SRRP プロジェクトを 2002 年 9 月から実施した。同プロジェクトの第 2 フェーズ（2005 年～2008 年）を実施している。同プロジェクトの協力内容は、以下のとおり。
 - ①スレブレニツァ市役所に対する協力
 - ・ 地方政府組織の構築
 - ・ 公共インフラの整備（水供給施設や住宅等の整備）
 - ②帰還促進のための事業
 - ・ 住宅整備に伴う道路整備
 - ③公共サービスの実施
 - ・ 学校/文化センター/保健センター等の建設
 - ・ 関係者への研修
- 上記プロジェクトの予算（2005 年～2008 年）は 1,400 万 US\$ で、内 1,200 万 US\$ をオランダ国が拠出する。1,400 万 US\$ の内、600 万 US\$ が公共インフラの整備、600 万 US\$ が羊配布事業（下述）、残る 200 万 US\$ が、ドナー経費（事務経費）に使われる。
- 上記プロジェクトの実施主体としてはこれまで、地域の NGO を公示によって選定していたが、市役所や UNDP 自身が行なう形態に代わってきている（市役所と UNDP が共同で出資する形にするとともに、事業実施の責任を地方政府に移ってきている）。MZ や民間セクターに実施してもらうこともある。ジェンダーにも配慮した形で事業が行なわれるよう、実施主体を選定している。
- 実施主体を市役所や MZ に移ってきているのは、純粋に実務的な理由による。NGO に行なわせたのでは、資金の多くが NGO 代表者やその家族に流れてしまう。事業実施の透明性の確保と、MZ の能力強化という点から、実施主体を替えてきている。MZ が実施主体となる場合でも、資金そのものは UNDP が管理している。農業機械等は（MZ でなく）農民組織（Association of Farming）に貸与する形にしている。事業実施の情報は、全て MZ 等を通じて住民に流している。NGO に実施してもらうのは（研修等の場合の）サービスの提供だけである。スレブレニツァ・ブラトナツ・ミリチの 3 県に 59 の NGO があるが、これらは 6～7 で十分かと思う。

- 経済開発としての農業の振興のための酪農プロジェクトを、ブラトナツツ県を中心に、スレブレニツァ県のスレブレニツァ MZ 及びミリチ MZ でも実施中である（スレブレニツァ MZ からの参加は 1 農家）。同プロジェクトでは、UNDO スタッフによる 5～6 人の普及員への指導を通じ、技術普及システムを構築する。普及活動を通じた収益により、獣医師を雇用できる様になった。生産物の販売先も確保でき、裨益対象者の拡大を目指している。
- ブラトナツツ県・ミリチ県・スレブレニツァ県では、羊配布プロジェクトを実施中である。
- 民間企業向けの支援として、職業訓練センターの設立やポトチャリにおけるビジネス地域の設置（水道や電気の敷設）も検討している。森林分野においては、コンサルタントが現状を評価しているところである。

日時：5 月 31 日（木） 15:30～16:30
 場所：スレブレニツァ市役所
 面談者：Mr. Suljo Cakanovic（帰還民委員会）
 小林 T 長、吉田職員、大泉専門家

（概要）

- JICA プロジェクトの対象 6MZ への帰還を希望する人数は増えている。Cervica MZ では被害が少ないが、スケラニ MZ では 10 軒の家屋を再建した。今後も再建を支援する必要がある。Luka MZ は市街地から遠いことから、支援の必要性は大きい。プロジェクトの対象を（6MZ 以外の）他 MZ にも拡げて欲しい。
- スレブレニツァ県ではかつて、工業が主で農業は副次的であったが、今では農業と結びついた民間ビジネスが起こってきた。とくにスケラニ MZ では農業が主である。
- 農家は生産を組織化する必要がある。以前は会社が一括して買い上げてくれるジャガイモの生産が盛んであったが、今は売れない。また、農民への教育も必要である。農業生産拡大のための規律化が求められる。
- 家屋再建のプロジェクト実施数は減少している（→JICA からこの面での支援は期待できないか？）

日時：6 月 1 日（金） 14:00～14:30
 場所：BiH 人権難民省
 面談者：Mrs. Slavica Jaksic
 小林 T 長、吉田職員、橋本専門員、大野職員、大泉専門家、橋本企画調査員、辰巳企画調査員

（概要）

- 調査の結果、スレブレニツァでの協力を継続する方向で、スレブレニツァ市と合意したことを報告。専門家の延長と、新しいプロジェクトの要請をスレブレニツァ市が行い、人権難民省が承認、外務省へ提出する流れで合意。
- （報告に対し）情報に大変感謝している。より内容がクリアになった。

- JICA の質問票には回答を用意したが、現場のことは把握していないので、回答が難しかった。モニタリングは市の役目である。
- (プロジェクトへの関わりを深めて欲しいとの要望に) NGO 事業に関与することは、BiH 人権難民省の職分ではないため、現在のレベルでの協力を継続したい。現場のことはスレブレニツァ市が良く分かっていると信じる。
- (BiH 人権難民省の役割について確認したところ) BiH 人権難民省は、全国 5 カ所の regional center において、各市町村レベルの要望の聞き取り等を実施しているとのこと。スレブレニツァについては、ツヅラのセンターが担当である。
- 帰還の促進には電力事情の改善が必要なので、JICA が何かできるかとの質問があったが、既に日本国の円借款が入っている旨回答。

日時：6月1日(金) 15:00～15:20

場所：BiH 外務省

面談者：Mr. Sefik Fadzan, Minister Counselor, Mrs. Alma Vrazalica, Second Secretary
小林 T 長、吉田職員、橋本専門員、大野職員、辰巳企画調査員、橋本企画調査員

(概要)

始めに、小林団長より、今回の中間評価調査団の結果報告書(スレブレニツァ市と JICA 間の覚書書添付)が手交された。また、調査結果の概要についての要点が口頭で説明され、当事業の延長の決定と、長期専門家の延長の必要性、また、それに付随する要請書の提出等、手続き面の予定等が報告された。

(ファジャン参事官より)

- 長期専門家延長の話は、以前の年間報告を受けた際にも伺っており、承知していた。
- 事業の延長については、歓迎の意を表する。
- BiH 人権難民省を通して正式な手続きを行っている点も、評価したい(当省の協力を得ることが重要と考えるので)。
- 延長の際には、当案件の BiH に対する貢献度がより高まることを期待している。
- 将来的にはスレブレニツァのみではなく、より広い地域で同様のプロジェクトが実施され、より多くの地元住民が経済的支援を受けられるようになることを期待したい。

(JICA 側よりコメント)

- スレブレニツァ市長との面談の際にも伺ったが、帰還民は増え、街の雰囲気も良くなってきているとのことである。
- 当事業の次のフェーズでは、住民間の信頼醸成の促進を目標としたい。
- これまでの事業実施の中でも、既に地域住民間での信頼が生まれ始めてきている点が見られ、評価に値すると思料している。

長期専門家がスケラニに滞在している意義として、農業面での技術支援のみではなく、仲介者（facilitator）として住民をまとめ、問題解決や意思決定の際の第三者の存在としての役割が、非常に重要である。

日時：6月1日（金）

場所：在 BiH 日本国大使館（サラエボ）

面談者：疊臨時代理大使、上田一等書記官、
木村外部委嘱員、小林 T 長、橋本専門員、大野職員、吉田職員、辰巳企画
調査員、橋本企画調査員

（概要）

小林団長より、事業の成果、スレブレニツァ市とメモランダムを交換したことを報告。

主なコメントは以下のとおり。

- （調査団より、新フェーズの協力については、8月末までに提出してもらうことをレターも付して人権難民省に依頼済みであることを説明。）先方からの要望調査切である 8/15 に合わせて督促することとしたい（上田書記官）。
- **MZ** の巻き込みについて
（今回のヒアリングで、**MZ** 総代からプロジェクトへの関与について強い要望があったことを受けて、新フェーズの協力で巻き込みも検討したいとの調査団の指摘に対し、）**MZ** を巻き込むことについては、プロ・コンがあるはず（上田書記官）。
「事業のプロポーザルについてアイデア次第」（大泉専門家が、**MZ** 代表に話した事項）というの、良いかもしれない（疊臨時代理大使）。
- （バイナバスタ市場で、プロジェクトの農産物が販売されていたことの調査団からの報告に対し、）売れるようにすることが必要。マーケティングを重要視している。品質を限定して、プロジェクトで作成したロゴマークが付いた農産物を消費者が選んで買うようになってくれると良い。マーケティング分野の専門家の派遣が期待される（疊臨時代理大使）。

協力開始から1年経ち、大泉専門家の下、本協力はうまく実施されていると見ている。長い取り組みになると考えているが、JICA が協力して良かったと後で振り返ることができる様にして努力して欲しい（疊臨時代理大使）。

日時：6月4日（月）9:25～10:35

場所：JICA バルカン事務所（セルビア国ベオグラード）

面談者：鹿野所長、辰巳企画調査員、小林団長、吉田団員

（概要）

小林団長より、事業の成果、スレブレニツァ市とメモランダムを交換したことを報告。

主な質疑は以下のとおり。

Q（所長）：経済活動を通じた和解の状況はどうか。

A（調査団）：他に有力なアプローチがなさそうな中、農業を通じたアプローチは有効。将来的な協力では MZ をまたぐようなものができるとういと考えている。

Q（所長）：新たな協力においては、数値目標を設けることはできそうか。

A（調査団）：民族融和の数値目標は難しい。ヒアリングでは、栽培する際の情報交換やパラダイムに他の宗教の人が参加するというようなことが見られた。

→ 最終的には帰還人数だろう。但し、1991 年以降国勢調査をしていないこと、また、普段はサラエボにいて選挙のときだけスレブレニツァに戻ることもありえることに注意が必要（辰巳）。

Questionaree for the Mid-term Evaluation Study on the Community Development Project in the Srebrenica Municipality

Ministry of Human Rights and Refugees

This questionaree is for the Mid-term Evaluation Study on the Community Development Project in the Srebrenica Municipality, hereinafter referred to the Project, which commenced in March 2006 in corroboration among BiH Ministry of Human Rights and Refugees, Municipality Srebrenica and Japan International Cooperation Agency (JICA).

The questionaree consists of several fields concerning Project activities, and the results will be considered for confirmation of the achievement and mid-term evaluation of the Project.

We are highly appreciated if you could reply the following questions. Thank you very much.

May 2007
The Mid-term Evaluation Team.

Questions

1. About Ministry of Human Rights and Refugees and relation with the Project

1.1 What are roles and responsibilities of MHRR in general?

According the law on ministries and other management organs of BiH, The Ministry of Human Rights and refugees, among other in sphere of the return, has the mandate and responsibility in the following:

- *Pilot the Annex VII of The General outline memorandum for peace in BiH, as well as following and monitoring the execution of that Annex*
- *Creating and executing the policy of BiH in sphere of the return of refugees and displaced person to BiH, the reconstruction projects and ensuring the other conditions for the sustainable return*
- *All other activities appointed by the law and/or related on execution of the Annex VI and VII of the General outline memorandum for peace in BiH*
- *All data that Ministry considers as relevant in accordance with all valid standards on protection of the data*
- *Cooperation with the Non-government sector on issues that are under the competence of the ministry*
- *Collecting, systematizing, publishing and distribution of all data arising from the competence of the ministry*

1.2 How do you understand the objectives of the Project?

Ministry of Human Rights and refugees considers that the goals of The Project which are related to the sphere of the sustainable return have been market very well and that the Project, by setting the foundation of these goals, have won the full support of the Ministry.

1.3 What are your roles in the Project?

General:

Role of the Ministry is regulated by the law and determined as the coordination role. Ministry does not have possibility of an active involvement and active following of the Project realization. Regarding the questions marked as / 1.4; 1.5; 2; 4.2/we do consider that they should be directed toward the local authorities.

1.4 What do you expect to learn and achieve from the Project?

2. Verification of implementation process

2.1 Are there any important assumptions which were not expected?

Yes / No

(If yes) Please describe about important assumptions

3. Impact

3.1 What prospects do you have of the impact of the Project after the completion?

We think that the project will have a positive impact in the local community after it is completed.

3.2 Does the local community develop the ability in terms of economic independence? (Is there prospect that the local community develop the ability in terms of economic independence?)

We consider that the local authority is aware of the need to develop the skills that will bring economical security to its residents and that it will give its effort to develop the aforementioned

4. Sustainability

4.1 How do you evaluate the organizational capacity to implement activities to produce effects also after the termination of the Project? Please select a number below

1. Possible by Municipality Srebrenica own capacity
2. Possible with support from the central government such as MHRR
3. ***Possible with further support from other donors***
4. Impossible at all

Reason:

4.2 How do you evaluate the method of technology transfer use in the Project?

We consider that the answer no. 3 is suitable, considering the present condition and capacities of the municipality

5. Please describe any comments on the Project, if any.

At the moment, we do not have a comment

END

**Questionnaire for the Mid-term Evaluation Study on the Community
Development Project in the Srebrenica Municipality**

Municipality Srebrenica

This questionnaire is for the Mid-term Evaluation Study on the Community Development Project in the Srebrenica Municipality, hereinafter referred to the Project, which commenced in March 2006 in collaboration among BiH Ministry of Human Rights and Refugees, Municipality Srebrenica and Japan International Cooperation Agency (JICA).

The questionnaire consists of several fields concerning Project activities, and the results will be considered for confirmation of the achievement and mid-term evaluation of the Project.

We are highly appreciated if you could reply the following questions. Thank you very much.

May 2007
The Mid-term Evaluation Team

Questions

1. About Municipality Srebrenica and relation with the Project

1.1 What are roles and responsibilities of Municipality Srebrenica in general?

Before all activities of municipality in the project realization; municipality has given its fully support to project of JICA. Municipality of Srebrenica was supposed identify, actually locate the areas and carriers of activities, actually beneficiaries in the project implementation of the project. Especially through its forward organs or individuals that work in behalf of municipality; also to introduce with existence of other service agencies and parts of the civil sector and with overall compliance of all participants in order to give the compliance for the ultimate target groups or individuals as its beneficiaries.

1.2 How do you understand the objectives of the Project?

I Believe that this will be a new start of considering on better skills of living of these areas and even wider.

Of course, goals are especially selected reflecting the general need for purposes of: reduce the poverty, empower the economical support to the return and particularly empowering capacities of the local community-the development programs, through building the civil society and other

1.3 What are your roles in the Project?

General

Based on the Project proposal (document) of JICA and predicted scope and type of works in project activities, municipality is delivering all necessary information and documents at its disposal, in the written form, according which, the implementation of the project can be executed undisturbed.

Create the preliminary lists of beneficiaries if necessary, actually approve the final proposal, give its endorsement.

Enable all its capacities at the disposal and ensure the area covering,

Municipality has been taking over even additional obligations such as: providing the necessary land and other.

Involvement of capacities of the MZ and local office of Skelani.

1.4 What do you expect to learn and achieve from the Project?

We did not and we must not accept this project as one of the donations. Before all, in its implementation and its development, it must include the transfer of Japanese experiences in cognition of the business philosophy and the business management, and above all, on relation toward the work and the environment.

We must be prepared to accept/adopt the rich Japanese experiences and use them, in future, for both our benefit and the benefit of the community in order to make things better for all of us and according to our perspective.

I have no doubts at all that the project will be a great stimulation to the return process and to the trust-building and to development of Skelani area.

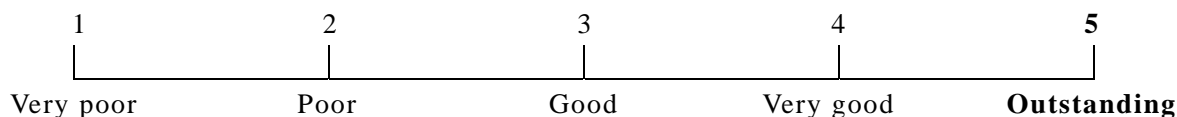
Therefore, I am inviting all participants in the realization, and above all the beneficiaries, NGOs, the implementing agencies, constructors and the equipment deliverers to decide themselves to the project success, in order to make its continuance certain, in which I personally have a deep faith.

Municipality of Srebrenica, assembly of the Municipality and I as the mayor but also as individual, and other municipality institutions will give our maximum effort to the success of the project and enable its development.

Particular expectations are in sphere of exploiting the resource potentials and stimulating the residents in manner of enterprise culture.

2. Verification of implementation process

2.1 How do you evaluate about project management of the Project? Please Circle the appropriate rating number. Any why?



Reason:

The presence of the project management directly on the field has provided a possibility to execute the corrective measures in all stages, and, directly with beneficiaries in partnership with the local community, NGOs, to work on the development of the project's success; building the trust among individuals and the groups.

2.2 Are there any important assumptions which were not expected?

Yes / No

(If yes) Please describe about important assumptions

NGOs have been good partners in animating the beneficiaries, but since they are non profitable organizations, to implement projects with processing capacities, its necessity to have the suitable legal form of organization for the processing of the projects.

3. Impact

3.1 What prospects do you have of the impact of the Project after the completion?

If the second phase is realized with the aforesaid components, effects would be reflected in the positive actions in the community, increasement of people interested to return to the previous residences; economical and social stability of communities and the general development of the area.

3.2 Does the local community develop the ability in terms of economic independence?

(Is there prospect that the local community develop the ability in terms of economic independence?)

Engaging the professional team by the local community:

- *Professional collaborator for agriculture*
- *Professional collaborator for the agro-business*
- *Professional collaborator for livestock farming and agriculture*

Provides the possibility for management, controlling and advisory function on the project sustainability, as well as by fiscally stimulation will ensure the high-quality management and nourish the project not only on area it covers, but also on the whole territory of Srebrenica Municipality.

4. Sustainability

4.1 How do you evaluate the organizational capacity to implement activities to produce effects and also after the termination of the Project? Please select a number below.

1. **Possible by Municipality Srebrenica own capacity**
2. **Possible with support from the central government such as MHRR**
3. **Possible with further support from other donors**
4. Impossible at all

Reason:

Due to the necessity of the project continuance and all components contained by the second phase also, still uncomplete qualification of capacities of the local community, wider support and intervention of others is required.

4.2 How do you evaluate the method of technology transfer use in the Project?

Positive, particularly because it is acceptable as the developing possibilities and do satisfy the standards.

5. Please describe any comments on the Project, if any.

Project have had series of positivenesses such as:

- Above all, people's trust in the project and the trust-building and the partnership -building between individuals and groups,
- Identification of the production cultures,
- Animating the residents and increasement of the enterprise culture,
- Increased interest to the return onto the pre-war residence areas,
- Creating the partnership form (NGO, Municipality, Citizens...)
- Recognized developing chances
- Identified need for the second phase of the project

Questionaree for the Mid-term Evaluation Study on the Community Development Project in the Srebrenica Municipality

NGO Podrinje 1

This questionaree is for the Mid-term Evaluation Study on the Community Development Project in the Srebrenica Municipality, hereinafter referred to the Project, which commenced in March 2006 in corroboration among BiH Ministry of Human Rights and Refugees, Municipality Srebrenica and Japan International Cooperation Agency (JICA).

The questionaree consists of several fields concerning Project activities, and the results will be considered for confirmation of the achievement and mid-term evaluation of the Project.

We are highly appreciated if you could reply the following questions. Thank you very much.

May 2007
The Mid-term Evaluation Team

Questions

1. About your NGO and relation with the Project

1.1 What is the main activity of your NGO in general?

Raising the medical herb plantation, The Greenhouse production of seedlings and early vegetable, Development of agriculture through the mechanization renovation.

1.2 How do you understand the objectives of the Project?

Sustainable return, economical development of this area, self-employment, joint life and reconciliation.

1.3 How do you see the Project in general? Please Circle the appropriate rating number. And why?

1	2	3	(4)	5
Very poor	Poor	Good	Very good	Outstanding

Reason: Very good because for a very short time a lot has been accomplished but it is needed to have a lot of education for residents on agriculture development, actually activities executed by JICA to achieve outstanding results (recommendation: it is necessary to enable as more residents as possible through the lectures on each sphere linked to agriculture that we are currently executing)

1.5 Please describe about your involvement in the Project:

(i) Your role in the Project

Coordination between beneficiaries, reporting to JICA on situation on the field, organizing lectures, monitoring of the whole production process starting from the sowing until the market, selection of beneficiaries above all.

(ii) How do you participate in the Project

Creating the project, mode of its realization, executing the necessary activities on the field, placement of the product, and reporting on aforementioned to JICA.

(iii) How do you evaluate your participation in the Project? Please Circle the appropriate rating number. And why?

1	2	3	4	(5)
Not enough		Just right		Too enough

Reason: NGO presents the link between JICA and beneficiaries, and beneficiaries are addressing to us directly for both good and bad situations.

1.6 What do you expect to learn and achieve from the Project?

Through this project, organization will learn the efficient executing of activities on the field, diplomatic resolving the problems occurred during the realization, approach to beneficiaries. And good organizational capacities will be achieved from the Project and resources that will enable the continuance of this project without donor's support.

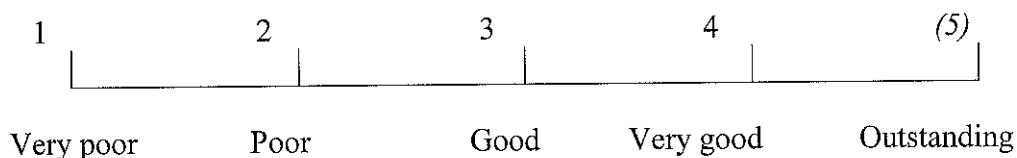
2.Verification of implementation process

2.1 How do you evaluate that the Project activities are implemented as planned? Please Circle the appropriate rating number. And why?

1	2	3	4	(5)
Very poor	Poor	Sufficient	Good	Very good

Reason:In a very short time, what we did not expect that could be possible to be achieved had been accomplished, particularly in sphere of production, which is a new on this area.

2.2 How do you evaluate about project management of the Project? Please Circle the appropriate rating number. And why?



Reason: *Considering that this is a new and modern mode of production, it was very important to have an expert present on the field, which enabled good realization of the project.*

2.3 Are there any important assumptions which were not expected?

Yes / No

(If yes) Please describe about important assumptions

We did not expect to reach the situation when it is necessary to justify and create a logo concerning agriculture production of this area and this gives us hope that this project will be successful and our production becomes recognizable.

2.4 How were the target group selected? Please describe the idea and the way of the selection which you made.

The advantage in selection was given to self-supported mothers, returnees, multi-member families and particularly families with small children that have decided to stay or to return to this area. We have been taking care of equal ratio of Bosniak and Serb residents' involvement. The definite list was created after discussion with beneficiaries from which we have realized who was serious regarding activities and who was actually interested to work.

3. Sustainability

3.1 How do you evaluate the organizational capacity to implement activities to produce effects also after the termination of the Project?

After the project is closed we will be able to use all what we have learned during the project realization concerning the development of agriculture and transfer it to other residents in order to help to self-employment.

4. Please describe any comments on the Project, if any.

Considering this is the area with the highest population and the least developed part of Srebrenica municipality and that there were no investments here, this Project have helped a lot to start of the development of this area. We believe that more technical support is necessary both for those that have been supported and to those residents that were not covered with this Project. This project will significantly help the return process and to reduce depopulation of residents of this area.

END

Questionaree for the Mid-term Evaluation Study on the Community Development Project in the Srebrenica Municipality

NGO Dom

This questionaree is for the Mid-term Evaluation Study on the Community Development Project in the Srebrenica Municipality, hereinafter referred to the Project, which commenced in March 2006 in corroboration among BiH Ministry of Human Rights and Refugees, Municipality Srebrenica and Japan International Cooperation Agency (JICA).

The questionaree consists of several fields concerning Project activities, and the results will be considered for confirmation of the achievement and mid-term evaluation of the Project.

We are highly appreciated if you could reply the following questions. Thank you very much.

May 2007
The Mid-term Evaluation Team

Questions

1. About your NGO and relation with the Project

1.1 What is the main activity of your NGO in general?

- *Research and analysis of problems of modern village*
- *Education for members of Association and others by organizing lectures, courses and meetings and similar. For purpose of creating the business initiative in area of agriculture, small-scale economy and independent actions;*
- *Organizing the different types of independent contributions, different types of support and solidarity for members of Association;*
- *Economic actions when in role of realization of the program goals of Association and which would be a mechanism to rely on Association and member's own forces.*

1.2 How do you understand the objectives of the Project?

Goals of this project are realistic and surely will have impact on the future of inhabitants both in economic condition as well as in sphere of internal(ethnic) relations and tolerance.

1.3 How do you see the Project in general? Please Circle the appropriate rating number. And why?

1	2	3	(4)	5

Very poor	Poor	Good	Very good	Outstanding

Reason: *The Project is on a good direction, results are visible on the field but some projects which are components of this total PROJECT are not encircled and with a small additional investments would make them quite complete and sustainable guaranteed.*

1.5 Please describe about your involvement in the Project:

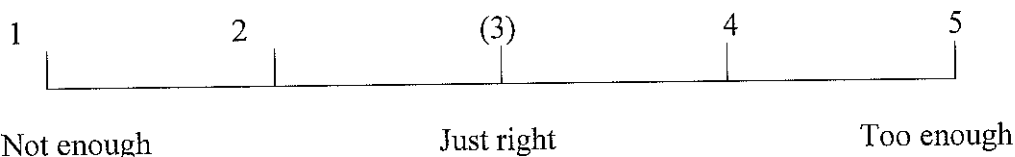
(i) Your role in the Project

- *Our organization independently implements the project of PRODUCTION OF MUSHROOM;*
- *Participating as partner with Women association "Podrinje 1" in project Production of medical herbs; and*
- *Participating in constructing the drier facility for drying the medical herbs, mushroom and plum, together with Women association "Podrinje 1" and NGO "Drina" supported by Embassy of Japan.*

(ii) How do you participate in the Project

- *Our organization has been working on preparing the space for Organized production of mushroom and we will assist in the production process. Also, we will give our full support to beneficiaries in placement of the product onto the market and after we are convinced in sustainability of project, the production process will be handed over to owners and they will become the owners of production.*
- *In project of production of medical herbs, we have participated in growing the seedlings of medical herbs, organizing the soil preparation for transplanting the medical herbs and raising the medical herb plantation.*

(iii) How do you evaluate your participation in the Project? Please Circle the appropriate rating number. And why?



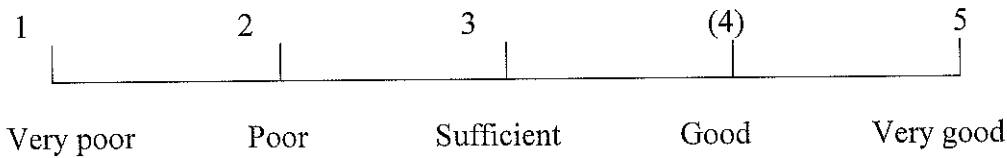
Reason: *We believe that our organization have had satisfactory participation and role in accordance with the institutional and management capacities, although with experience that we have now, we could bring more contribution and better to the success and results of the project.*

1.6 What do you expect to learn and achieve from the Project?

- *Considering that we have become involved in organizing businesses and production that we have never done before, we have learned a lot and also, we woke up the inhabitants' conciseness on possibilities that might be used on our area; how to start to initiate new cultures in agriculture production and make people turn to cultures that provide higher profit than those that they got used to.*

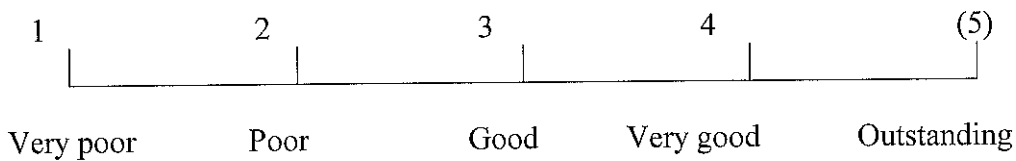
2. Verification of implementation process

2.1 How do you evaluate that the Project activities are implemented as planned? Please Circle the appropriate rating number. And why?



Reason: *Considering the problems we have faced with in the implementation process and objective difficulties during the project implementation, our subjective evaluation is that the project is implemented well.*

2.2 How do you evaluate about project management of the Project? Please Circle the appropriate rating number. And why?



Reason: *Because in every moment, we had JICA's support regardless the problem.*

2.3 Are there any important assumptions which were not expected?

Yes / No

(If yes) Please describe about important assumptions

2.4 How were the target group selected? Please describe the idea and the way of the selection which you made..

- *During the selection of our target groups we have taken in consideration the following:*
- *Material condition of our beneficiaries,*
- *Their ability to participate in the project,*
- *The category of inhabitant they belong to (to belong to a endangered category_x)*
- *Spacing (territorial) distance from the place where the project is implemented*
- *Eager and willing to cooperate with each other.*

3. Sustainability

3.1 How do you evaluate the organizational capacity to implement activities to produce effects also after the termination of the Project?

Organizational capacities do exist but we believe that some projects are not complete and being such, they are not guaranteed-sustainable and additional investments should be made in order to encircle some of the production processes.

4. Please describe any comments on the Project, if any.

Our attitude is that, if there were suitable conditions, to extend the project until several projects are fulfilled, and with a possibility of extension and the production becomes larger, this would guarantee the competition on the market. Also, there are some new prosperous ideas that might be executed on this area, for the benefit of inhabitants of this area.

Questionnaire for the Mid-term Evaluation Study on the Community Development Project in the Srebrenica Municipality

NGO Orhideja

This questionnaire is for the Mid-term Evaluation Study on the Community Development Project in the Srebrenica Municipality, hereinafter referred to the Project, which commenced in March 2006 in corroboration among BiH Ministry of Human Rights and Refugees, Municipality Srebrenica and Japan International Cooperation Agency (JICA).

The questionnaire consists of several fields concerning Project activities, and the results will be considered for confirmation of the achievement and mid-term evaluation of the Project.

We are highly appreciated if you could reply the following questions. Thank you very much.

May 2007
The Mid-term Evaluation Team

Questions

1. About your NGO and relation with the Project

1.1 What is the main activity of your NGO in general?

Activities of NGO are: Experimental production of strawberry, Raising the fruit plantation.

1.2 How do you understand the objectives of the Project?

Project goals are the economical development of this part of the municipality, economical development of families and the sustainable return, prevention of depopulation of residents, joint life and reconciliation through the development of agriculture.

1.3 How do you see the Project in general? Please Circle the appropriate rating number. And why?

1	2	3	(4)	5
Very poor	Poor	Good	Very good	Outstanding

Reason: Project enables the economical development of this area well exploited natural capacities and the economical development of families and hereby the sustainable return. But in order to accomplish sustainability, economical and technical support is needed for some period.

1.5 Please describe about your involvement in the Project:

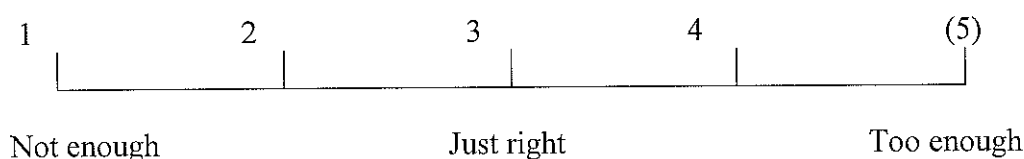
(i) Your role in the Project

The fundamental role of organization is selection of beneficiaries (producers), educating beneficiaries, purchase of necessary equipment and monitoring of the complete process of production starting from preparation of the land till placement onto the market.

(ii) How do you participate in the Project

NGO justifies projects, implement them, coordinates between JICA and beneficiaries, coordinates among beneficiaries, and coordinates between beneficiaries and the market. Considering that this is a new type of agriculture production it educated beneficiaries and monitors the production and reports JICA on activities executed.

(iii) How do you evaluate your participation in the Project? Please Circle the appropriate rating number. And why?



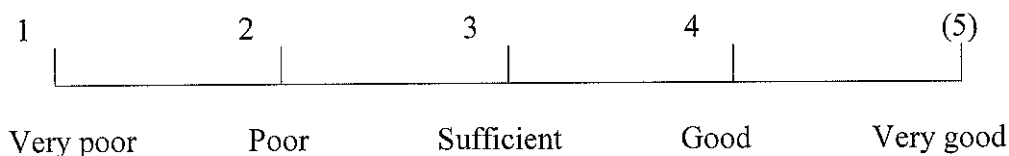
Reason: NGO justifies and realizes the project, initiates a new type of agriculture production, monitors the production process, educates the beneficiaries and ensures the placement of products with technical support from JICA and its expert.

1.6 What do you expect to learn and achieve from the Project?

Through this project, organization will learn the efficient executing of activities on the field, diplomatic resolving of problem occurred during the realization of project, approach to beneficiaries. And achieve good organizational capacities from the project and resources that will enable the continuance of the project in future, without donor support.

2. Verification of implementation process

2.1 How do you evaluate that the Project activities are implemented as planned? Please Circle the appropriate rating number. And why?



Reason: Considering that the modern type of agriculture production have not been applied and that these are the experimental programs, we believe that we have accomplished a quite visible success.

2.2 How do you evaluate about project management of the Project? Please Circle the appropriate rating number. And why?

1	2	3	4	(5)
Very poor	Poor	Good	Very good	Outstanding

Reason: *Considering that this is a new and modern type of production, it is very important to have had the presence of an expert on the field and this has enabled good realization of the project.*

2.3 Are there any important assumptions which were not expected?

Yes / No

(If yes) Please describe about important assumptions

Concretely, considering the strawberry production, we did not expect big difference between the greenhouse production and production on the open space. Actually, production on the open space appeared as extremely ungrateful because beneficiaries have lost great crop due to unpredictable weather conditions. Also, we have exceeded our expectations regarding the success of production, we are pleasantly surprised by positive recognition of our product and the logo on the market and by big demand for strawberry. Too big interest of residents in this type of production.

2.4 How were the target group selected? Please describe the idea and the way of the selection which you made.

The advantage in selection of beneficiaries is given to self-supported mothers, returnees, multi-member families and in particular families with small children that have decided to stay or return to live on this area. We have been taking care of equal ratio of Bosniak and Serb involvement and very often we have consulted current chairmen of MZs.

3. Sustainability

3.1 How do you evaluate the organizational capacity to implement activities to produce effects also after the termination of the Project?

After the project is closed we will be able to use all what we have learned during the project realization concerning the development of agriculture and transfer it to other residents in order to help to their self-employment.

4. please describe any comments on the Project, if any.

Considering this is the area with the highest population and the least developed part of Srebrenica municipality and that there were no investments here, this Project have helped a lot to start of the development of this area. We believe that more technical support is necessary both for those that have been supported and to those residents that

were not covered with this Project. This project will significantly help the return process and to reduce depopulation of residents of this area.

END

Questionnaire for the Mid-term Evaluation Study on the Community Development Project in the Srebrenica Municipality

NGO Zadrugar

This questionnaire is for the Mid-term Evaluation Study on the Community Development Project in the Srebrenica Municipality, hereinafter referred to the Project, which commenced in March 2006 in corroboration among BiH Ministry of Human Rights and Refugees, Municipality Srebrenica and Japan International Cooperation Agency (JICA).

The questionnaire consists of several fields concerning Project activities, and the results will be considered for confirmation of the achievement and mid-term evaluation of the Project.

We are highly appreciated if you could reply the following questions. Thank you very much.

May 2007
The Mid-term Evaluation Team

Questions

1. About your NGO and relation with the Project

1.1 What is the main activity of your NGO in general?

Production of bale-hay and Improvement of the grass field.

1.2 How do you understand the objectives of the Project?

Goals of the project are economical development of families and sustainable return.

1.3 How do you see the Project in general? Please Circle the appropriate rating number. And why?

1	2	3	4	(5)
----- ----- ----- ----- -----				
Very poor	Poor	Good	Very good	Outstanding

Reason: Project enables good development of this area and hereby, the economical development of families and sustainable return.

1.5 Please describe about your involvement in the Project:

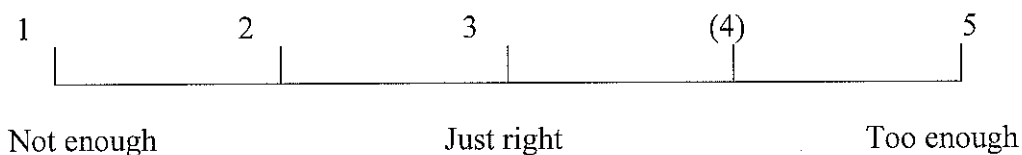
(i) Your role in the Project

Coordination between beneficiaries, members of association and JICA.

(ii) How do you participate in the Project

NGO provides services such as grass cutting, collecting and production of hay-bale. Also, NGO creates the corn-silage. NGO has sowed 80 dimum of the grass for purpose of improvement of the grass field.

(iii) How do you evaluate your participation in the Project? Please Circle the appropriate rating number. And why?



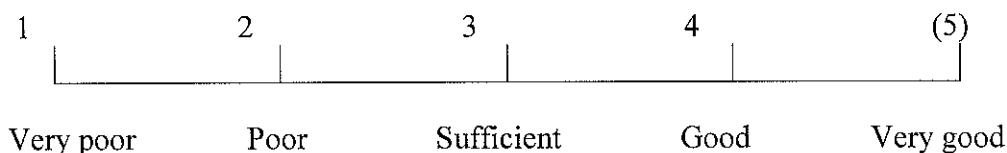
Reason: NGO takes care of machines, monitors the project realization, educates the beneficiaries and enables the market.

1.6 What do you expect to learn and achieve from the Project?

Through this project, we will accomplish higher economical development and sustainable return, and with the presence and professional support of an expert, we will lean the modern and organized type of agriculture production.

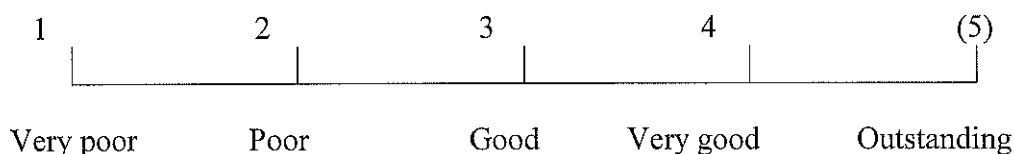
2. Verification of implementation process

2.1 How do you evaluate that the Project activities are implemented as planned? Please Circle the appropriate rating number. And why?



Reason: Considering that there was no such a type of the hay production on this area so far and that this is an experimental program, we do believe that we have exceeded our expectations.

2.2 How do you evaluate about project management of the Project? Please Circle the appropriate rating number. And why?



Reason:

2.3 Are there any important assumptions which were not expected?

Yes / No

(If yes) Please describe about important assumptions

2.4 How were the target group selected? Please describe the idea and the way of the selection which you made..

Above all, we have given our effort on equal involvement of both Bosniak and Serb residents. Also, the priority was given to self-supported mothers, returnees and economically endangered families.

3. Sustainability

3.1 How do you evaluate the organizational capacity to implement activities to produce effects also after the termination of the Project?

NGO will continue with these activities after the project is closed.

4. please describe any comments on the Project, if any.

Project has proved good results, but further technical support from JICA is necessary. This in particular because of new type of agriculture engagement requires the presence of an expert on the field, both for families that were included and new beneficiaries would be need to be supported.

END

Questionaree for the Mid-term Evaluation Study on the Community Development Project in the Srebrenica Municipality

NGO Drina

This questionaree is for the Mid-term Evaluation Study on the Community Development Project in the Srebrenica Municipality, hereinafter referred to the Project, which commenced in March 2006 in corroboration among BiH Ministry of Human Rights and Refugees, Municipality Srebrenica and Japan International Cooperation Agency (JICA).

The questionaree consists of several fields concerning Project activities, and the results will be considered for confirmation of the achievement and mid-term evaluation of the Project.

We are highly appreciated if you could reply the following questions. Thank you very much.

May 2007
The Mid-term Evaluation Team

Questions

1. About your NGO and relation with the Project

1.1 What is the main activity of your NGO in general?

Programme of Raising the fruit plantation on area of 5 MZ, Apiculture program with 50 beneficiaries and a plan for packing the honey, Drying of fruit at the drier facility at Crvica with partners: Women Association Podrinje 1 and Association of Citizens Dom.

1.2 How do you understand the objectives of the Project?

Goal of the project is economical recovery and sustainable return of Skelani residents through the economical support in agriculture and processing capacities. Ultimate and overall of the project will be accomplished when marketing and the business are complete and encircled that were projected through several projects executed for each individual program.

1.3 How do you see the Project in general? Please Circle the appropriate rating number. And why?

1	2	3	4	5
<hr/>				
Very poor	Poor	Good	<u>Very good</u>	Outstanding

Reason: Unique and detailed approach to implementation, monitoring and coordination by all partners in realization by JICA staff, implementing organization and professional staff that was engaged.

1.5 Please describe about your involvement in the Project:

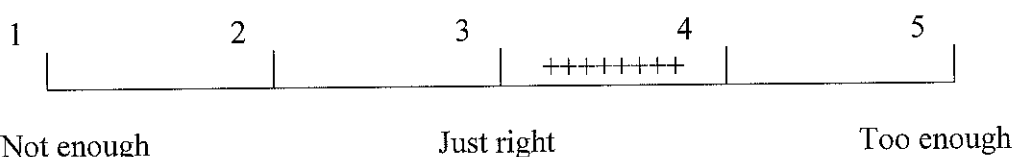
(i) Your role in the Project

Implementation of programs according rules and principles that were partly suggested by NGO and partly instructed by JICA, coordinated with activities of other partners of individual programs.

(ii) How do you participate in the Project

Coordination with project beneficiaries, actually residents, monitoring of implemented donor support, organizing professional lectures, organizing beneficiaries for approach to the market.

(iii) How do you evaluate your participation in the Project? Please Circle the appropriate rating number. And why?



Reason:

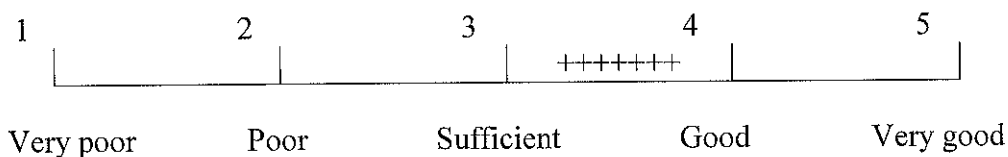
Great number of beneficiaries on a wide area, impossibility of fulfilling the great number of requests by beneficiaries that were not involved by the program due to the limited volume of support. Before implementation of the Project, the 50 percent of Srebrenica municipality residents of this area were not involved in any supportive program and especially the Serbs that received less than 10 percent of total support and it was impossible to ensure the sustainable return for them.

1.6 What do you expect to learn and achieve from the Project?

To learn how to implement a project on new project area where our organization have not been working before, work with the great number of beneficiaries of both nationality and the coordination with them in realization of projects. Organize joint approach of small agriculture producers onto the market.

2. Verification of implementation process

2.1 How do you evaluate that the Project activities are implemented as planned? Please Circle the appropriate rating number. And why?



Reason: *Programs implemented by our organization alone are executed without problems. Implementation of the program of drier facility that is being constructed does not depend only on us but on partners that are qualified as carrier of this project, with whom we have signed the memorandum on joint cooperation, and the drier facility should be used according to the regulations that were signed with the same and those should be executed by JICA upon whose suggestion we have signed the memorandum on the equipment utility.*

2.2 How do you evaluate about project management of the Project? Please Circle the appropriate rating number. And why?

1	2	3	4	5
				++++++
Very poor	Poor	Good	Very good	Outstanding

Reason: *All support have been implemented in accordance with project's purpose.*

2.3 Are there any important assumptions which were not expected?

Yes / No

(If yes) Please describe about important assumptions

It is needed to ensure that partners, actually Women Association Podrinje 1 should respect the duties concerning the partnership relations toward other two partners concerning the joint program applied to Embassy regarding constructing and utility of the equipment of Food Production on area of Municipality of Srebrenica.

2.4 How were the target group selected? Please describe the idea and the way of the selection which you made..

The principles are as follows: territorial involvement, the material conditions, ethnic principles, actually involvement of both Bosniak and Serb, number of family members.

3. Sustainability

3.1 How do you evaluate the organizational capacity to implement activities to produce effects also after the termination of the Project?

There are capacities for continuance of activities after the project is closed; still, more Support is needed at this moment in order to enclose the circle of production, packing, the placement and the marketing.

4. please describe any comments on the Project, if any.

It is necessary to continue the Project on this area, actually on these 5 MZ in order to ensure the sustainability of the project and amend the injustice in previously neglected in the development sphere, particularly for the most suitable part of the municipality for agriculture.

収集文献・資料一覧

UNHCR

- Briefing Note Return to Srebrenica, April 2007
- 2005 Re-registration of DPs in Bosnia and Herzegovina-TOP Twenty Municipalities, December 2006

その他、UNHCR を通じ入手した資料

- Durable returns to a durable state?-An opinion poll on the situation of returnees in Bosnia and Herzegovina, Swiss Development Cooperation (SDC), July 2006
- Srebrenica aid table
- Summary of ICMP Assistance to Date in BiH-with Particular Focus on Srebrenica, OHR's ad hoc group for IC coordination on Srebrenica, April 2007
- IC Assessment Group on Srebrenica-Report to SBA and BoP, draft, June 2007
- Past and Current OSCE Mission

UNDP

- UNDP in Bosnia and Herzegovina, Info pack
- Social Inclusion in Bosnia and Herzegovina, National Human Development Report 2007
- Srebrenica Regional Recovery Programme
- Srebrenica Regional Recovery Programme (SRRP)-SRRP Strategy, Phase II 2006-2008, October 2005
- Development & Transition, issue 6, April 2007

その他

- Bosnia and Herzegovina road map